

## 7. 水源地域動態



## 7.1 評価の進め方

### 7.1.1 評価方針

水源地域動態の評価は大きく2つの流れにより評価を行う。1つは、地域との関わりという点で、ダム建設から管理以降、現在までのダム事業を整理するとともに、地域情勢の変遷を整理し、地域においてダムがどのような役割を果たしてきたか、今後の位置づけはどのように考えていくべきかなどの評価を行う。

もう1つの流れとして、ダム周辺整備事業とダム及びダム周辺の利用状況から評価を行うものである。ダム周辺に整備された施設などが十分に利用されているものとなっているか、又は逆に利用状況から見た施設は十分なものとなっているかなどの評価を行う。

最後にこれらをまとめ、ダム及びダム周辺の社会的な評価の総括を行い、課題等について検討する。

### 7.1.2 評価手順

評価方針のとおり大きく2つの流れにより評価を行いとりまとめることとする。作業のフローは図7.1.2-1に示すとおりである。

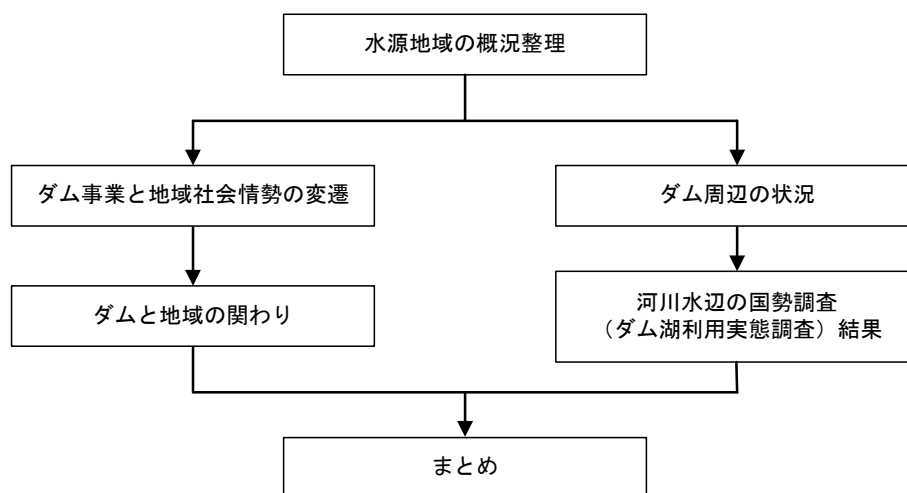


図 7.1.2-1 評価手順

### (1) 水源地域の概況整理

水源地域の地勢や人口等の概要、交通条件や観光施設等のダムの立地特性等の視点から水源地域の概況を把握する。

### (2) ダム事業と地域社会の変遷

周辺地域の社会情勢、地域の交流活動・イベント等についてダム事業の経緯とともに変遷を年表形式で整理し、ダム事業と地域社会の係わりを把握する。周辺地域の社会情勢、地域の交流活動・イベント等は、ダムの影響とまでは言えないまでも関連がありそのような事項を抽出する。これらのまとめにより、ダムを含めた水源地域としての地域特性を把握する。

### (3) ダムと地域の関わり

ダムと地域との関わりとして、(2)をもとに、「地域に開かれたダム」や「水源地域ビジョン」等も参考にしながら、地域におけるダムの位置づけについて考察を行う。

さらにダム管理者と地域の関わりとして、至近5ヶ年程度のダム管理者と地域の交流事項等について整理し、管理者の活動等について評価する。

### (4) ダム周辺の状況

ダムの周辺環境整備計画を整理するとともに、現況の整備状況等について整理を行い、加えて、「地域に開かれたダム」や「水源地域ビジョン」により新たに整備された施設等についても整理する。

なお、原則は、「水源地域対策特別措置法」で整備した施設等は評価対象としないが、ダム事業と一体となって整備した施設等は含めることとする。

また、施設入り込み数、イベント開催状況等から周辺の利用状況を整理し、利用に関する評価を行う。

### (5) 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

河川水辺の国勢調査(ダム湖利用実態調査)結果より、ダム周辺施設の年間利用者数、利用形態等についても整理する。

また、アンケート調査結果から、利用者がどのような感想をもっているかについても整理し、利用者の視点からのダム周辺施設（環境整備）の評価を行う。

### (6) その他関連事項の整理

水源地域の社会動態に関する既往検討資料、または景観検討資料、施設の維持管理に関する検討資料等、関連する資料があれば整理する。

### (7) まとめ

以上より、地域とダムの関わり、ダムの利用状況に関する評価結果をまとめ、ダムの特徴、課題等について整理する。また、負の評価結果となった事項があれば、これらについて要因を整理し、極力改善策等の提案についてとりまとめるものとする。

## 7.2 水源地域の概況

### 7.2.1 水源地域の概要

#### (1) 自然

名張市に位置する比奈知ダムの水源地域は、三重県から奈良県東部にまたがり、南方に広がっている。

名張川は、奈良県宇陀郡御杖村の高見山地<sup>みみおさん</sup>三峰山(標高 1,235m)北麓に発し、北に流れ比奈知ダム付近で西に流れを変え青連寺川と合流する。高見山地付近は、「室生赤目青山国定公園」に含まれており、急峻な地形となっている。

#### (2) 比奈知ダム流域に含まれる市村

比奈知ダムの流域自治体は、平成 15 年まで名張市、青山町、美杉村(ともに三重県)、御杖村<sup>みつえむら</sup>(奈良県)の 1 市 1 町 2 村であった。しかし、平成 16 年 11 月 1 日の市町村合併により、青山町は上野市等 6 市町村で合併し、伊賀市となった。また、平成 18 年 1 月 1 日の市町村合併により、美杉村は津市等 10 市町村で合併し、津市となった。これに伴い、現在の水源地域は、名張市、伊賀市、津市、御杖村の 3 市 1 村となっている。

比奈知ダム流域に占める各市町村の面積及び割合を表 7.2.1-1 及び図 7.2.1(1)に示す。また、流域市町村位置図を図 7.2.1-1(2)に示す。

表 7.2.1-1 比奈知ダム流域市町村の面積及び流域面積

市町村名		市町村面積 (km <sup>2</sup> )	比奈知ダム 流域面積 (km <sup>2</sup> )	割合 (%)
三重県	名張市	129.76	10.44	13.83
	旧青山町(現伊賀市)	109.00	0.31	0.41
	旧美杉村(現津市)	206.70	20.77	27.51
奈良県	御杖村	79.63	43.98	58.25
合計		525.09	75.50	—

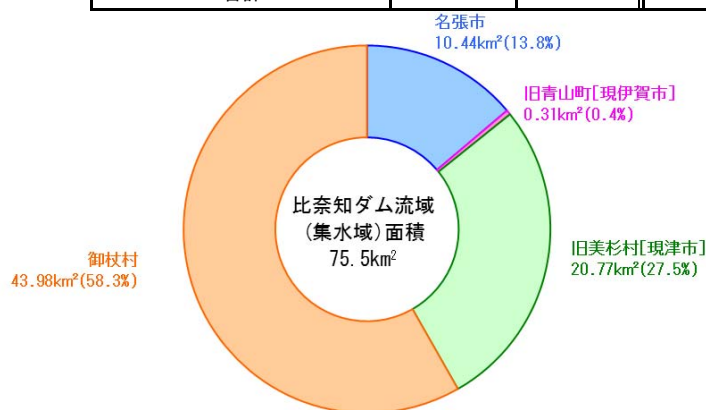


図 7.2.1-1(1) 比奈知ダム流域市町村の面積及び流域面積

※資料:国土交通省国土地理院「平成 17 年全国都道府県市区町村別面積調」

※比奈知ダム流域面積はプランニングによる測定

※旧青山町は平成 16 年 11 月 1 日に旧上野市、旧阿山郡阿山町、旧伊賀町、旧島ヶ原村、旧大山田村と合併し、「伊賀市」となった。

※旧美杉村は平成 18 年 1 月 1 日に旧津市、旧久居市、旧河芸町、旧芸濃町、旧美里村、旧安濃町、旧香良洲町、旧一志町、旧白山町と合併し、「津市」となった。

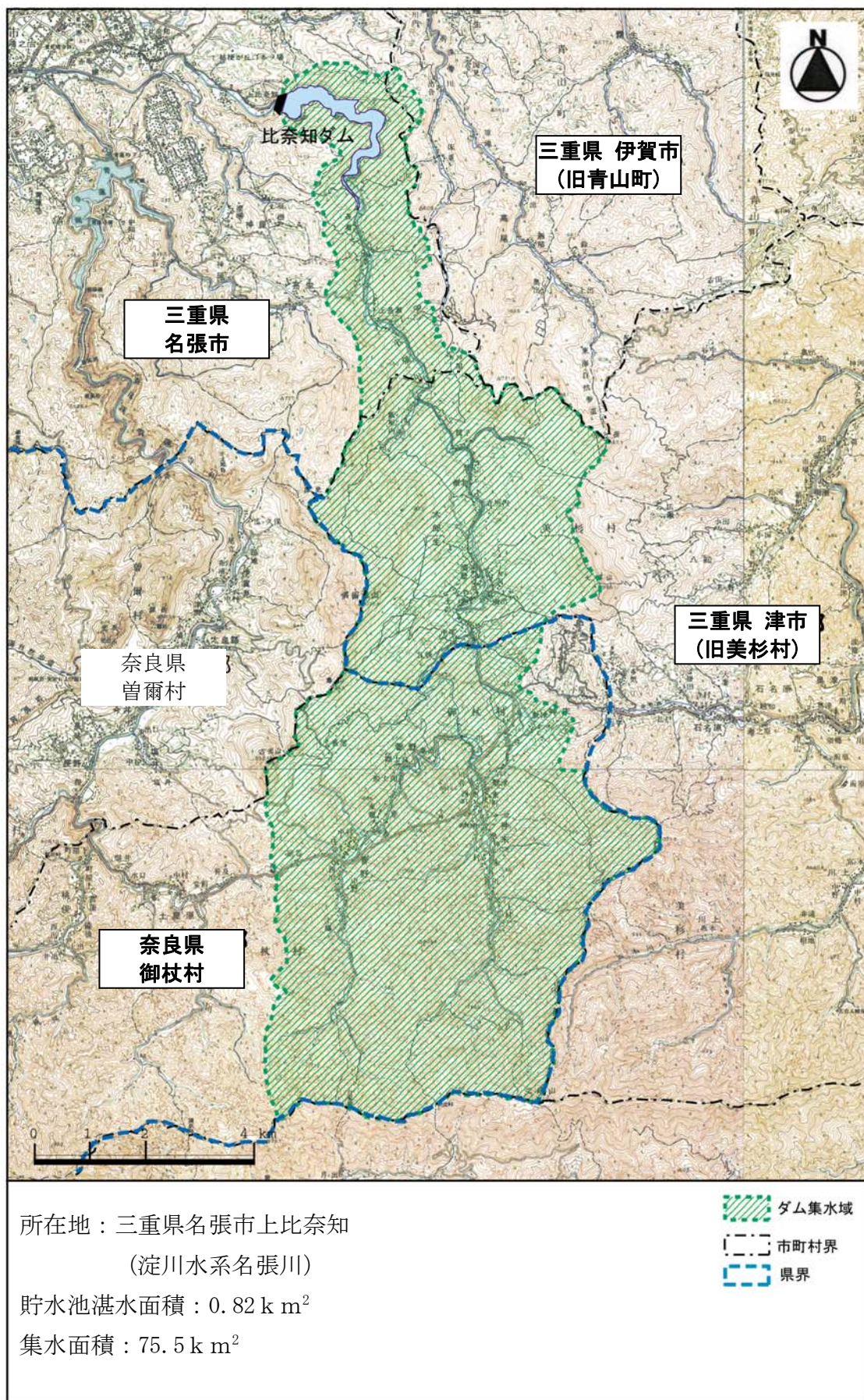


図 7. 2. 1-1 (2) 比奈知ダム流域市町村位置図

(3) 流域内の人口動態

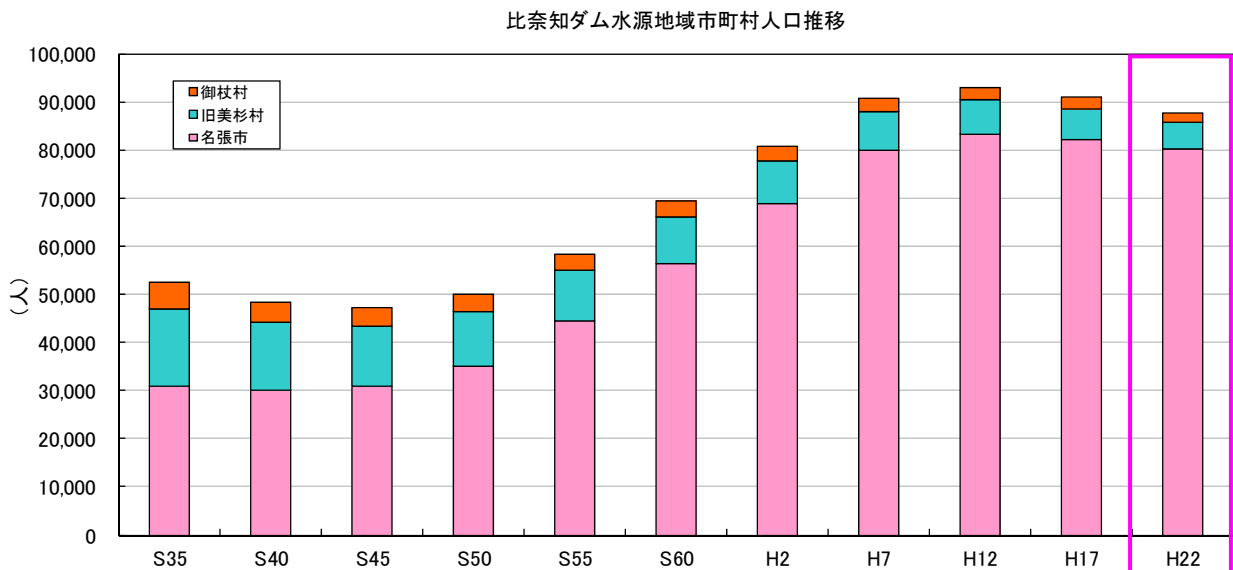
1) 流域市村人口動態

名張市、旧美杉村及び御杖村の人口動態は表 7.2.1-2, 図 7.2.1-2 のとおりである。

旧美杉村、御杖村の人口はやや減少傾向であり、名張市の人口は平成 12 年調査までは増加傾向、平成 17 年調査より減少傾向にある。

表 7.2.1-2 比奈知ダム水源地域旧市町村(名張市、旧美杉村、御杖村)の人口推移

比奈知ダム水源地域人口※1		S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
三重県	名張市	30,904	30,084	30,862	34,929	44,488	56,474	68,933	79,913	83,291	82,156	80,284
	旧美杉村※2	16,043	14,103	12,470	11,408	10,495	9,630	8,835	8,015	7,158	6,392	5,381
奈良県	御杖村	5,533	4,159	3,852	3,593	3,430	3,287	3,035	2,840	2,623	2,366	2,102



※1 上記人口は、流域人口でなく流域に含まれる旧市町村の各自自治体の総人口である。(出典：国勢調査)

※2 美杉村は、H18.1.1 美杉村を含む 10 市町村が合併し「津市」となった。H22 は、旧美杉村の人口である。

図 7.2.1-2 名張市、旧美杉村、御杖村の人口推移

比奈知ダム流域で最も大きな面積を占める奈良県御杖村の人口は以下のようになっている。

人口は年々減少傾向にあり、昭和35年には5,000人以上だった人口も、平成22年には2,102人となっており、50年間で約4割程度となっている。

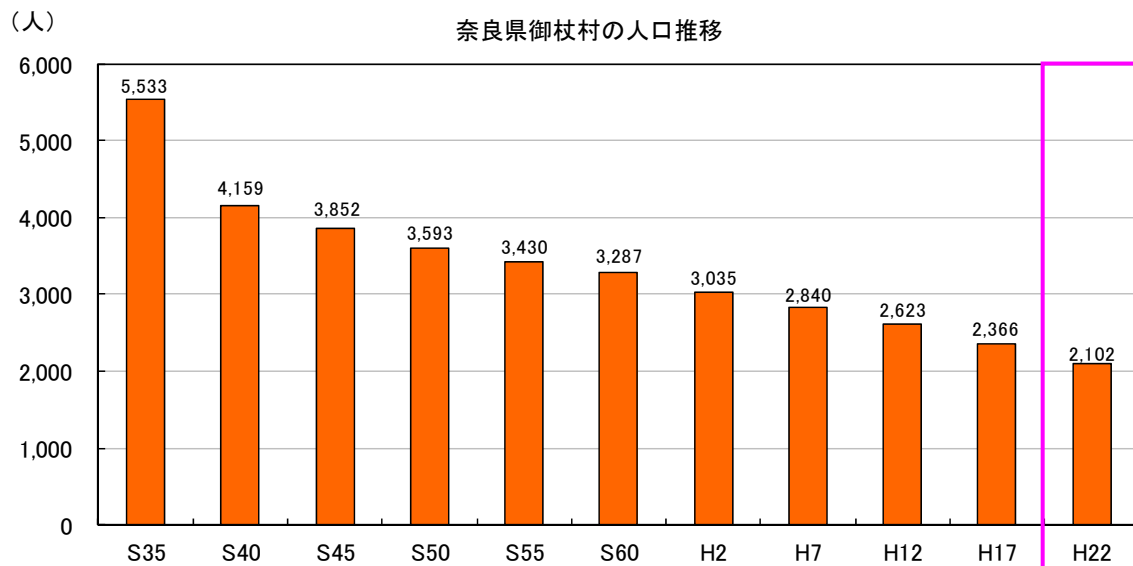


図 7.2.1-3 奈良県御杖村の人口推移

(出典：国勢調査データ)



2) 流域内人口・世帯数の推移

比奈知ダム流域内における人口の推移を表 7.2.1-3 及び図 7.2.1-4 に示す。

流域内では御杖村の人口・世帯数が最も多く、流域の約 50%程度を占めている。次いで、旧美杉村（現、津市）、名張市の順である。流域内人口で見ると、S55 をピークに S60 以降減少している。流域内世帯数で見ると、H2～H7 の間に増加傾向が認められるものの、以降は減少傾向を示している。

なお、旧青山町（現、伊賀市）の比奈知ダム流域内には、居住者はいない。

表 7.2.1-3 比奈知ダム流域内人口・世帯数推移 (S55～H22)

比奈知ダム流域内人口

(単位：人)

市村名	昭和 55 年	昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年
名張市	830	796	690	767	643	564	486
旧美杉村[現津市]	1,670	1,663	1,587	1,503	1,392	1,207	1,001
御杖村	2,477	2,349	2,167	2,037	1,869	1,711	1,529
合計	4,977	4,808	4,444	4,307	3,904	3,482	3,016

比奈知ダム流域内世帯数

(単位：世帯)

市村名	昭和 55 年	昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年
名張市	191	187	178	268	174	166	157
旧美杉村[現津市]	441	429	416	409	405	386	362
御杖村	671	646	621	628	622	600	572
合計	1,303	1,262	1,215	1,305	1,201	1,152	1,091

※ 各年の国勢調査結果（小地域集計結果）による。  
 ※ 比奈知ダム流域内の小地域（町丁・字）は以下のとおりである。  
 ・名張市：上比奈知、上長瀬、長瀬、滝之原  
 ・美杉村：太郎生  
 ・御杖村：大字菅野、大字神末  
 ※ 美杉村は平成 18 年 1 月 1 日、津市美杉町となった。

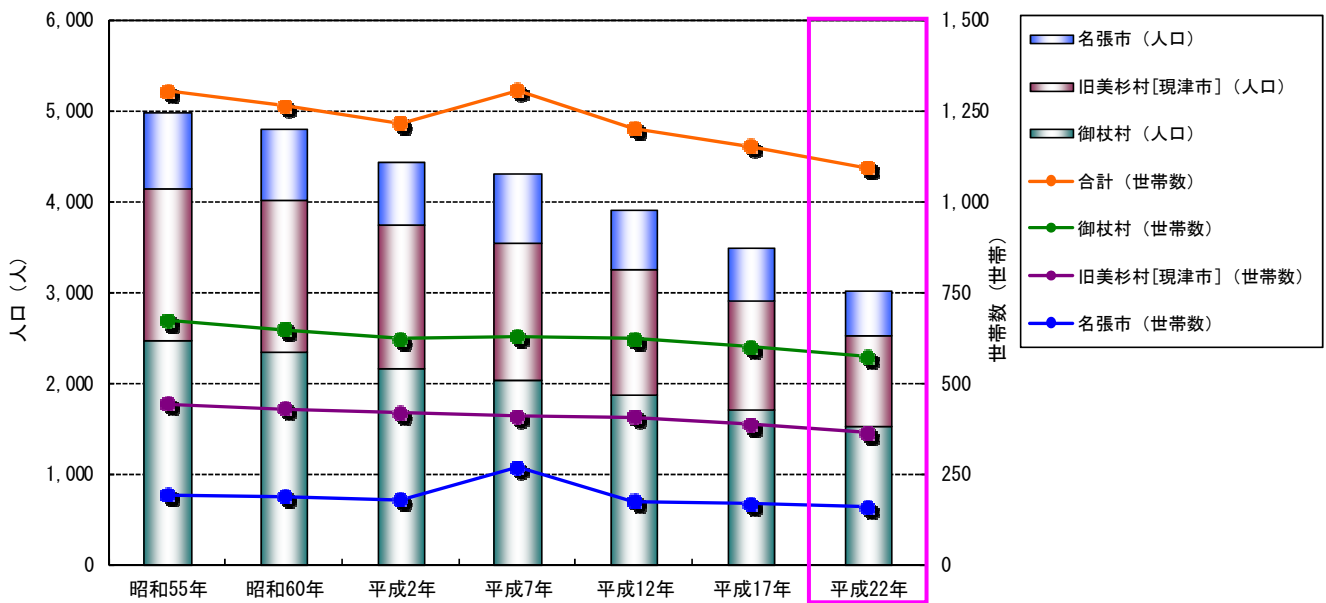


図 7.2.1-4 比奈知ダム流域内人口・世帯数推移 (S55～H17)

(4) 産業別就業者数

比奈知ダム流域内における就業者数の推移を表 7.2.1-4、図 7.2.1-5 に示す。全体としては流域内人口、世帯数の減少と同様に就業者数も減少している。

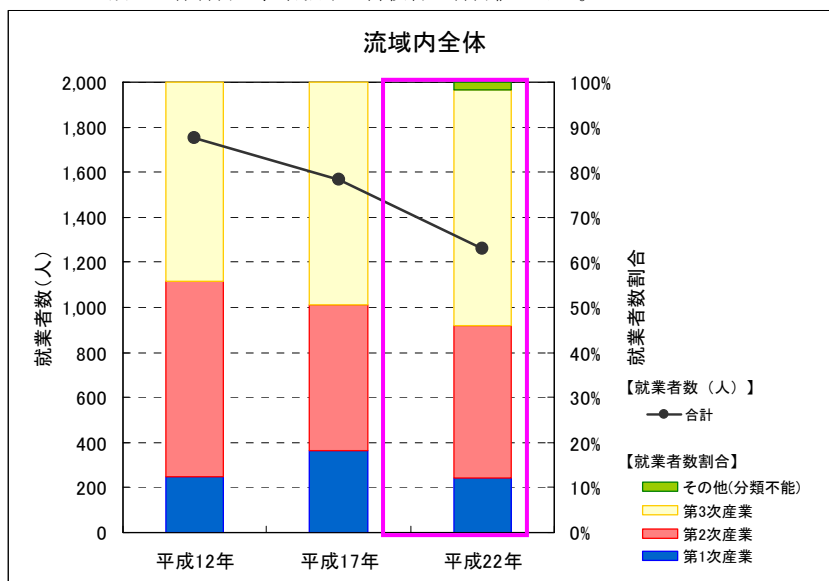
産業別で見ると第3次産業の割合が高くなっており、全体の約50%を占めている。(平成22年)

表 7.2.1-4 比奈知ダム流域内における就業者数推移 (H12~H22)

(単位：人)

		平成12年	平成17年	平成22年
名張市	第1次産業	39	44	35
	第2次産業	113	87	67
	第3次産業	147	119	101
	その他(分類不能)	—	—	2
	小計	299	250	205
旧美杉村 [現津市]	第1次産業	59	データなし	34
	第2次産業	297	データなし	193
	第3次産業	264	データなし	223
	その他(分類不能)	—	データなし	19
	小計	620	572	469
御杖村	第1次産業	121	138	85
	第2次産業	349	232	168
	第3次産業	361	372	335
	その他(分類不能)	—	—	1
	小計	831	742	589
全体合計	第1次産業	219	182	154
	第2次産業	759	319	428
	第3次産業	772	491	659
	その他(分類不能)	0	0	22
	合計	1,750	1,564	1,263

- ※ 各年の国勢調査結果（小地域集計結果）による。
- ※ 比奈知ダム流域内の小地域（町丁・字）は以下のとおりである。
  - ・名張市：上比奈知、上長瀬、長瀬
  - ・旧美杉村：太郎生
  - ・御杖村：大字菅野、大字神末
- ※ 美杉村は平成18年1月1日、津市美杉町となった。
- ※ 平成17年の旧美杉村の産業別の内訳データはないため、産業別の全体合計は、名張市と御杖村の合計値である。



※平成17年の旧美杉村の産業別の内訳データはないため、産業別の全体合計は、名張市と御杖村の合計値である。

図 7.2.1-5 比奈知ダム流域内における就業者数の推移 (H12~H22)

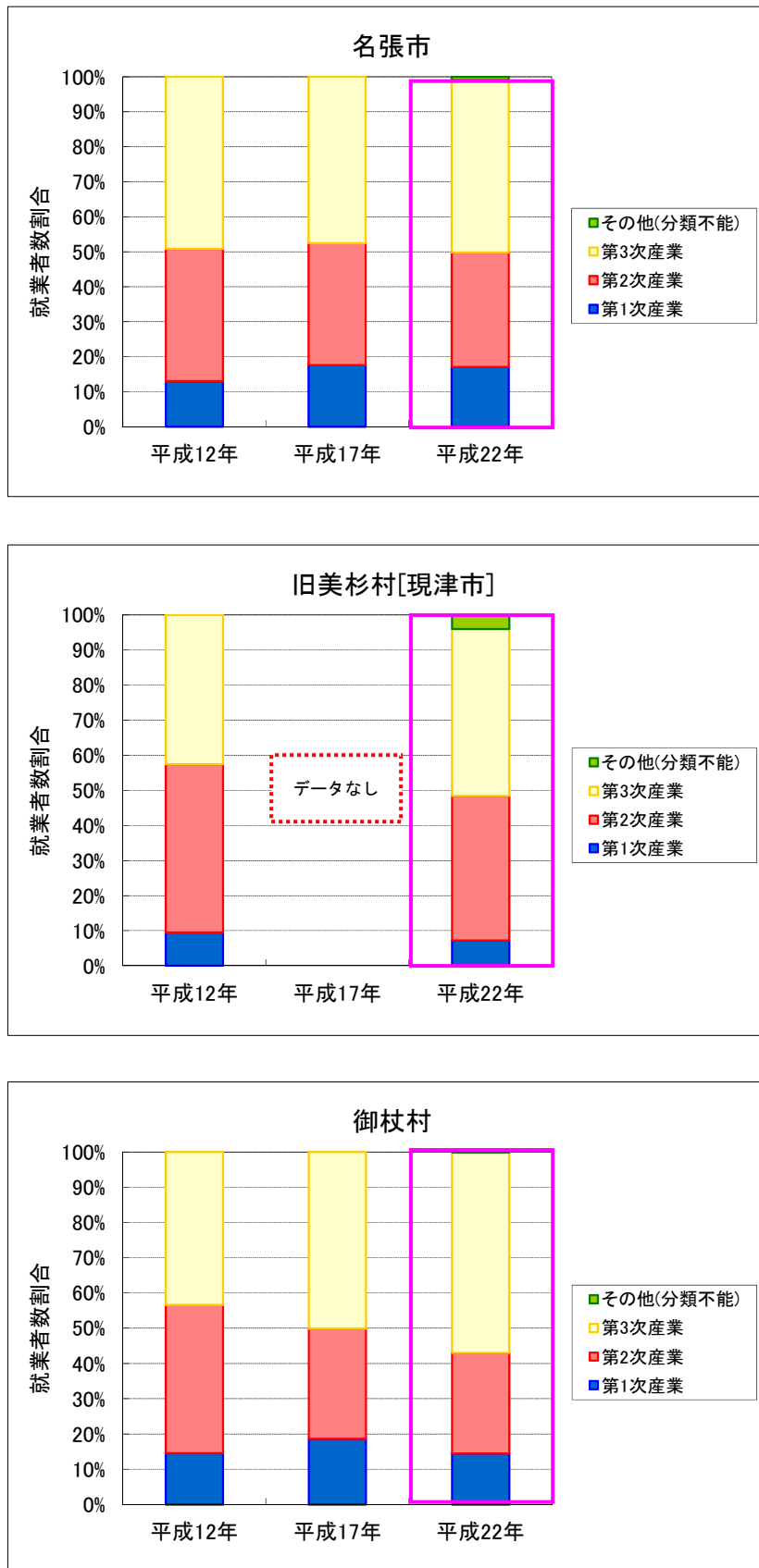
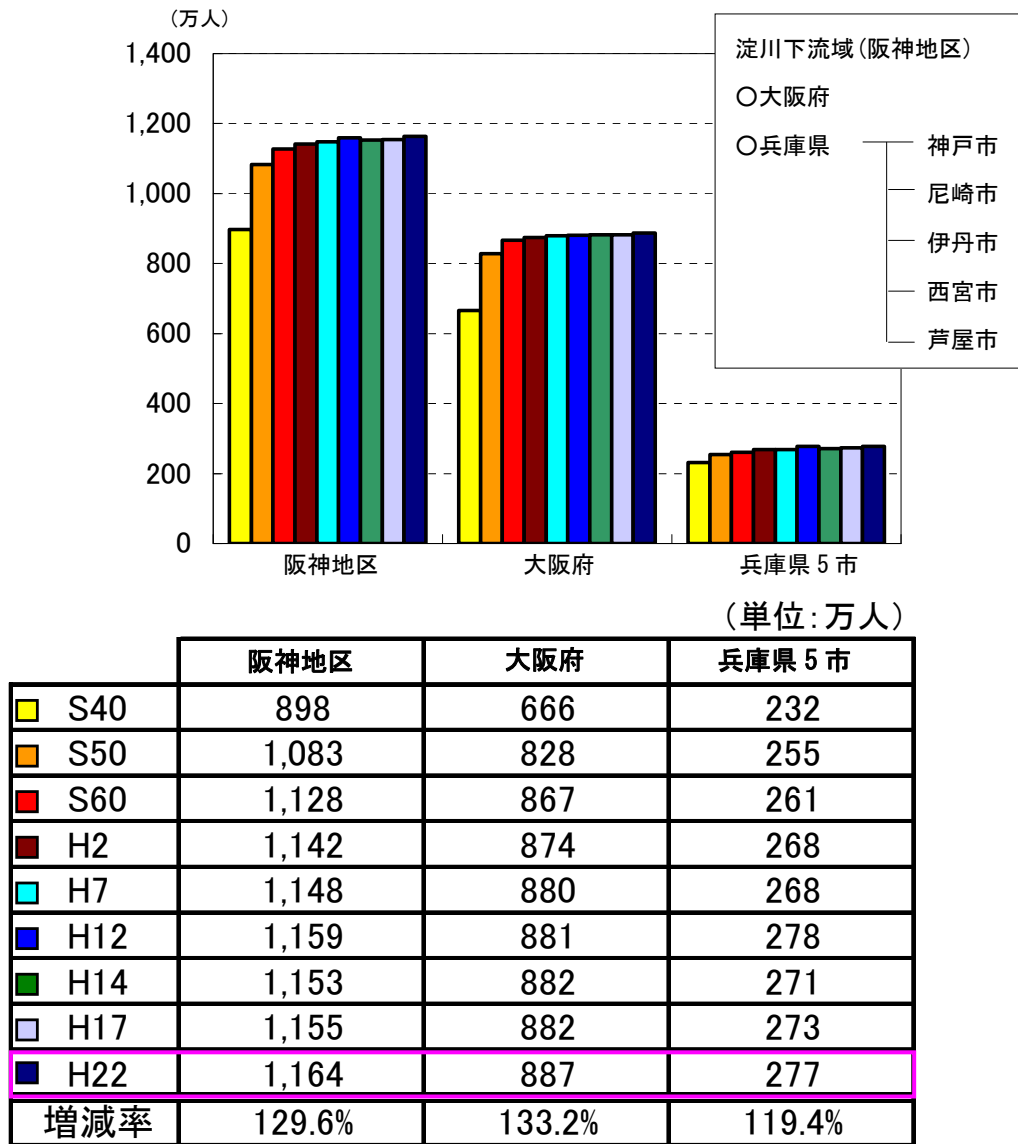


図 7.2.1-6 比奈知ダム流域内における産業別就業者数推移 (H12~22 市村別)

(5) 淀川下流域の人口の推移

淀川流域の人口は、図 7.2.1-7 に示すとおり、昭和 40 年から 50 年までの 10 年間で約 185 万人の増加があり、平成 2 年以降はほぼ横ばいの状態となっている。



【出典：国勢調査

※増減率は、昭和 40 年に対する平成 22 年の変動率を示す】。

図 7.2.1-7 淀川下流域の人口の推移

(6) 土地利用と産業

比奈知ダム流域内における土地利用状況を、図 7.2.1-8 に示す。流域内の土地の利用割合は、森林が 89.9%、田 4.6%、建物用地 2.1%、河川及び湖沼 1.3%となっており、開発は進んでいない。なお、流域上流部の津市美杉町及び御杖村には、一部住宅地も分布する。

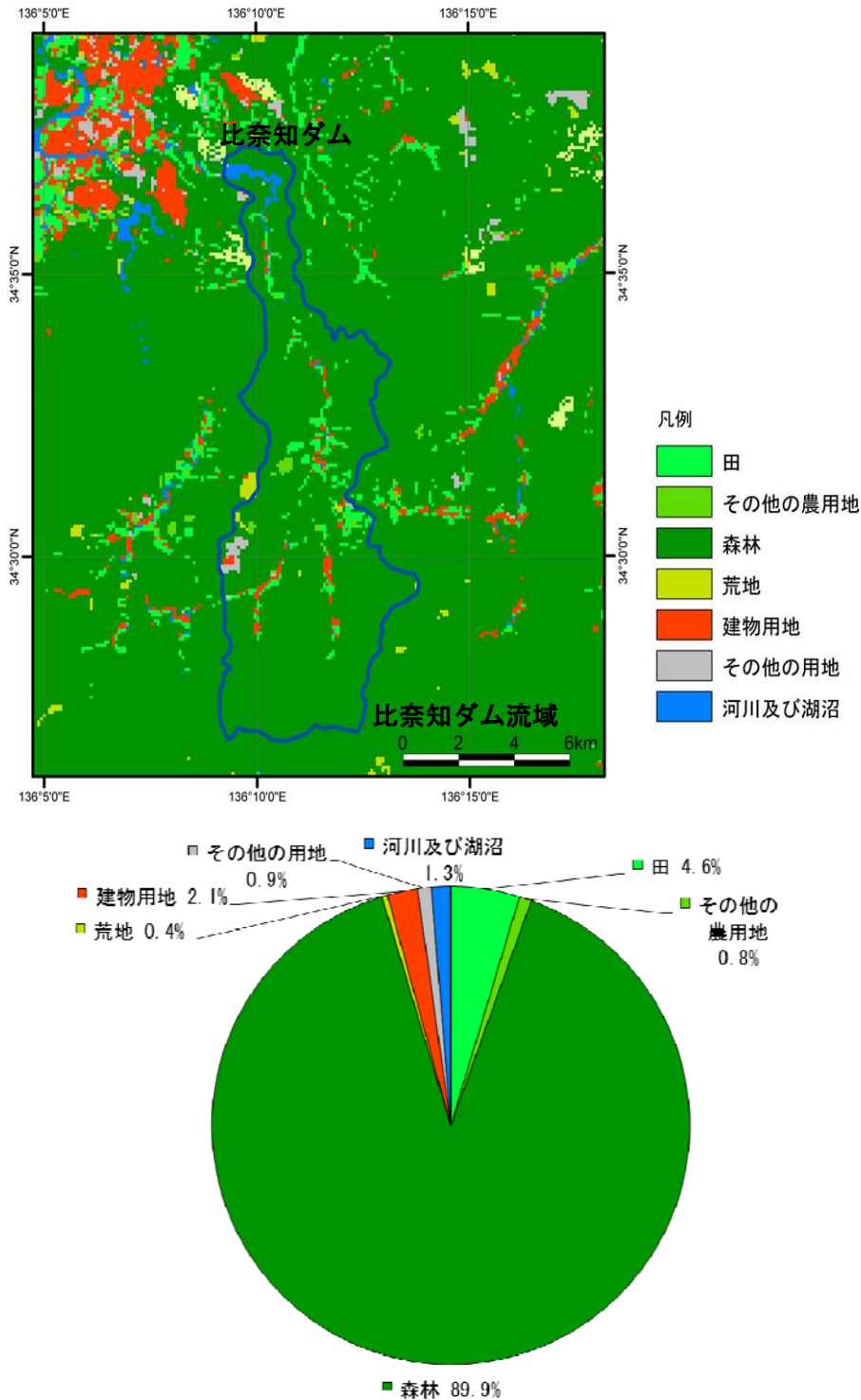


図 7.2.1-8 比奈知ダム流域内における土地利用

【出典：国土交通省国土政策局 国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ

平成 21 年度 土地利用 100mメッシュデータ】

## 7.2.2 ダムの立地特性

### (1) ダムへのアクセス

比奈知ダムは大阪から東へ約 60 km のところに位置し、大阪都心部から自動車でも名阪自動車道を利用して約 1 時間半、近鉄線（特急）を利用して約 1 時間（名張駅）でアクセスできる。また、比奈知ダムは名張駅から約 5 km と都市部に近いため、利用しやすい立地環境にある。



図 7.2.2-1 周辺都市からの交通網 (出典: 比奈知ダム HP)

## (2) ダム周辺の観光施設等

比奈知ダム周辺の観光施設等を表 7.2.2-1、図 7.2.2-2 に示す。

流域の代表的な観光資源としては、赤目四十八滝、香落溪、青蓮寺ダム、また名張市近郊では夏見廃寺跡などがあり、温泉も点在している。

表 7.2.2-1 比奈知ダム周辺の観光施設 (参考:比奈知ダム HP、津市観光協会 HP、御杖村役場 HP)

名称	概要	所在地
美旗古墳群	国の史跡に指定され、名張市が誇る重要な文化遺産となっている美旗古墳群は、伊賀氏または名張氏のものとして推測され県下最大規模を誇っています。「小塚」「毘沙門塚」「女郎塚」など、大小7基の古墳が点在しています。	三重県 名張市 美旗
夏見廃寺跡	夏見廃寺は、名張川右岸の男山南斜面にある古代寺院跡で、出土遺物から7世紀の末から8世紀の前半に建立されたと推定されています。白鳳文化を伝える夏見廃寺は伽藍配置に特異な点が見られるなど国の史跡に指定され、併設されている「夏見廃寺展示館」では、復元金堂を始め、各種の出土品などを展示しています。	三重県 名張市 夏見
名張藤堂屋敷	名張は古くから旧街道筋の要所、宿駅として開け、江戸時代には藤堂氏の城下町として栄えた町です。現在でも市街地には、往時を偲ぶ面影が数多く見られるほか、いたる所に神社・仏閣・旧跡が点在し、文化遺産を今に伝えています。	三重県 名張市 夏見
青蓮寺ダム (青蓮寺湖)	青蓮寺川に建設された洪水調節を主体とする多目的ダムである「青蓮寺ダム」によって生まれた湖で、奇勝「香落溪(こうちだに)」の玄関口にあり。青い湖面には四季を通じて新緑や紅葉が映えて美しさを引き立てています。また、湖畔では、キャンプに、バードウォッチングにとアウトドアライフが楽しめ、シーズンには広がる果樹園でぶどう・いちご狩りなどを満喫することが出来ます。	三重県 名張市
香落溪	室生火山群が造りあげた奇勝。雄大な柱状節理の岸壁が延々と続きます。鬼面岩、天狗柱岩、小太郎岩などと名付けられたユーモラスな奇岩や、勇壮な自然の造形美が見どころです。	三重県 名張市 中知山
赤目 四十八滝	日本の滝百選にも選ばれた滝。深い木々に包まれた渓谷には、大小の滝や奇岩の織りなす景観が約4kmにわたって続きます。遊歩道も設けられ、気軽な散策コースとして人気があります。中でも赤目五瀑と呼ばれる滝は必見です。	三重県 名張市 赤目町
三多気の桜	国道368号から真福院の山門に至る1.5km余の参道は、馬子唄にも歌われた山桜の名所。その桜並木は国の名勝に指定され、日本さくら名所百選にも選ばれています。4月には桜祭りも催され、毎年大勢の観光客でにぎわいます。	津市 美杉町 三多気
みつえ青少年 旅行村	バンガロー、テントサイトなどの宿泊施設があるキャンプゾーンと、ジャンボ滑り台、ボブスレー等が楽しめる遊具ゾーンで大自然が満喫できるアウトドアスポットです。	宇陀郡 御杖村 神末



図 7. 2. 2-2 比奈知ダム周辺の観光施設 (出典:比奈知ダム HP)





美旗古墳群 (名張市美旗)



夏見廃寺跡 (名張市夏見)



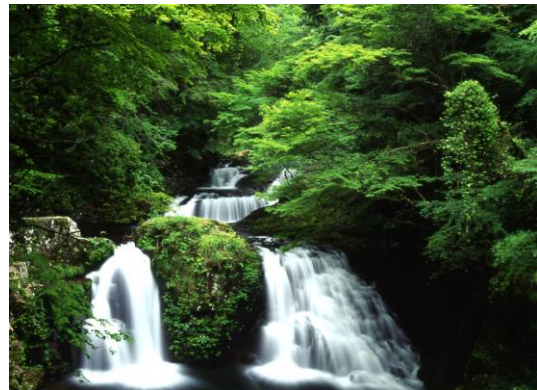
名張藤堂屋敷 (名張市夏見)



青蓮寺ダム (名張市)



香落溪 (名張市)



赤目四十八滝 (名張市赤目町)



三多気の桜



みつえ青少年旅行村

## (3) 文化財等

比奈知ダム流域には、国指定を受けている建造物「国津神社十三重塔」をはじめ、数々の文化財がある。

表 7. 2. 2-2 に比奈知ダム流域内に存在する文化財を示す。

表 7. 2. 2-2 比奈知ダム流域内文化財一覧

市町村名	指定	種別	名称
名張市 (三重県)	県	天然記念物	長瀬のヒダリマキガヤ
	市	彫刻	木造薬師如来坐像
		〃	上比奈知国津神社境内二尊石仏
		〃	上比奈知墓地石仏
	市	天然記念物	長瀬のコツブガヤ
津市 (三重県)	国	建造物	国津神社十三重塔
	県	天然記念物	国津神社のケヤキ
		〃	日神不動院のオハツキイチョウ
		彫刻	日神石仏群 附種子碑ほか
	市	有形民俗文化財	日神の今不動石仏
		〃	不動院の種子碑
		〃	国津神社の種子碑
奈良県御杖村	県	建造物	安能寺鐘楼門
		天然記念物	神末のカヤの巨大林

### 7.3 ダム事業と地域社会情勢の変遷

比奈知ダム事業に関わる地域社会の情勢と変化を年表にて整理する。

表 7.3-1 ダム事業と地域社会の変化(年表)

年代	比奈知ダム事業とインフラ整備事業	地域社会の変化		
		名張市	美杉村*	御杖村
M22				「御杖村」成立
S28				台風13号襲来
S29		市制施行		
S30			太郎生村等旧7村が合併し美杉村となる	
S33			台風17号襲来、全半壊8戸、被害総額2,700万円	
S34	伊勢湾台風により死者11人ほか大被害を受ける。災害救助法の適用を受ける		伊勢湾台風襲来、死者・行方不明者12名、重傷者2名、全壊38戸、半壊84戸、床上浸水100戸、被災者1,905名、公共施設等被害総額13億円	伊勢湾台風上陸 御杖村災害復旧対策委員会設置
S35	伊勢湾台風で流失の新町橋復旧		国勢調査実施、人口16,043人、合併時より7%減少	伊勢湾台風に関連し治山事業が進展 国調人口最高となる (5,533人)
S36	北田市長“四大事業(住宅開発、ダム建設、国道整備、観光開発)”を打ち出す			
	第二室戸台風襲来			第二室戸台風襲来(災害救助法適用)
S37			台風26号により多気中学校校舎倒壊	
S40	上水道給水開始		台風23・24号が来襲、全・半壊・床上浸水110戸、被害総額約4億6千万円	
S41	青蓮寺ダム着工			
	青蓮寺ダム完成		過疎地域振興法に基づく過疎地域指定に係る振興5ヵ年計画樹立	過疎地域振興法に基づく過疎地域指定に係る振興5ヵ年計画樹立
S45	室生・赤目・青山国定公園に指定			御杖村開発統合計画 道路整備計画
S46			美杉村第1次総合計画樹立	
S47	比奈知ダム建設事業を「淀川水系における水資源開発基本計画の全部変更」に含めて告示		君ヶ野ダムが完成	
S48	比奈知ダム調査所を開	国道165号全線開通		青少年旅行村オープン
S49				
S51			第2次美杉村総合計画樹立	
S53		美旗古墳群が国史跡に指定		
S54		市の人口、4万人を突破		
S56		上水道第2次拡張事業着工	第3次美杉村総合計画樹立	
S57	「比奈知ダム建設事業に関する事業実施方針」指示 比奈知ダム建設所を設置 「比奈知ダム建設事業に関する事業実施計画」認可	市の人口、5万人を突破	台風10号により、重軽傷者18人、全壊13戸、半壊41戸、被害総額209億円の災害被害が発生	台風10号襲来
S58		上水道第2次拡張事業で富貴ヶ丘浄水場などが完成		
S59	一般損失補償基準提示			
S60	一般損失補償基準妥結			
S61	淀川水源地域対策基金の対象ダム指定及び業務細則決定		第3次後期美杉村総合計画樹立	
S62	付替国道368号工事に着手	市の人口、6万人を突破		
S63	淀川水源地域対策基金の業務細則全部変更			
H2		市の人口、7万人を突破	第4次美杉村総合計画樹立 台風19号、20号が続けて来襲 「三多気の桜」、さくらの名所100選に選ばれる	
H5	比奈知ダム本体建設工事に着手			
H6	「事業実施方針」変更指示 「事業実施計画」変更認可	市の人口、8万人を突破		
H7	ダム本体打設開始			
H8	付替国道368号全線供用開始			
H9	ダム本体打設完了			
H9	試験湛水開始			
H10	試験湛水終了	台風7号通過 市全域で暴風により被害発生		
H11	「事業実施方針」変更指示 「施設管理方針」指示 「事業実施計画」変更認可 「施設管理規程」認可 管理開始	比奈知ダム施設見学会開催(以降毎年開催)		
H12		国道368号「上野ハイバス」開通		
H13			第5次美杉村総合計画を樹立	
H15		第1回ひなち湖紅葉マラソン大会開催(以降毎年開催)		
H16		市制50周年記念式典		
H17			「青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン」策定	
H17			美杉村50周年	
H18			津市等10市町村で合併し津市となる	
H19		ホテル鑑賞会(ダム下流広場)(以降毎年開催)		
H20	管理開始10周年記念植樹			名張川源流の碑除幕式
H21		ラ・フェスタブリマヴィラ(クラシックカーレース)開催(以降毎年開催)		

※ 美杉村は平成 18 年 1 月 1 日、津市美杉町となった。

- 市町村誕生、合併等
- 災害
- イベント、住民活動、交流活動
- 交流施設、地域振興拠点等の解説

(出典：比奈知ダム工事誌、名張市 HP、美杉村 50 周年記念誌、御杖村沿革(行政史))

## 7.4 ダムと地域の関わり

### 7.4.1 地域におけるダムの位置づけに関する整理

#### (1) 水源地域ビジョンの策定

21世紀のダム事業・ダム管理においては、従来からダムに求められていた治水、利水だけでなく、水源地域の自立的、持続的な活性化を図り、水循環等に果たす水源地域の機能を維持するとともに、自然豊かな水辺環境や伝統的な文化資産等を国民が広く利用できるよう、ハード、ソフト両面の総合的な整備を実施し、バランスのとれた流域の発展を図ることが期待されている。

このため国土交通省では直轄ダム、水資源機構ダムを対象に、地域ごとにダム水源地域の自治体等と共同し、ダムを生かした水源地域の自立的、持続的な活性化を図るための「水源地域ビジョン」を策定することとした。

そこで比奈知ダムでは、地元住民や関係機関等が共同して「青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン」を検討、平成16年3月に策定した。

なお、比奈知ダムの水源地域ビジョンの策定にあたっては、青蓮寺ダムおよび比奈知ダムが同じ名張川水系、名張市域に立地して一体的な水源地域を構成することから、両ダムで統一した水源地域ビジョンを策定した。

水源地域ビジョンの対象地域は、名張市(三重県)、旧美杉村(現三重県津市)、曾爾村(奈良県)、御杖村(奈良県)の4市村となっている。

4市村の位置は右図に示す。



図 7.4.1-1 水源地域ビジョンの対象地域(4市村)

「青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン」は、

**“青蓮寺ダム、比奈知ダムを活かした  
水源地域の自立的、持続的な活性化のための行動計画”**

として、青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域の活性化に向けた基本方針を定め、基本方針の実現のための具体的な方策を、ソフト対策に重点をおいて検討、策定したものである。

また、青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョンでは、「地域を越えてつなげよう 木津川をうるおす水いづる郷」をキャッチフレーズに、3つの基本方針と6項目の取り組み項目、合計24項目の具体方策が策定されている。

次頁にビジョン内容を示す。

〈キャッチフレーズ〉

# 地域を越えてつなげよう 木津川をうるおす水いづる郷

## 基本方針

### ○ 美しい自然環境と共生した地域づくり

青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域には、名張川や青蓮寺川等がつくる渓谷や、清らかな水を生み出す水源林、曹霨高原等の変化に富んだ美しい自然環境が形成されている。

これらの美しい自然環境を適切に保全、育成しつつ、適切に自然環境の活用を図ることで、自然環境と共生した地域づくりを推進する。

### ○ 自立した個性ある地域づくり

水源地域の活性化のためには、水源地域に暮らす人々自らの手で水源地域が持つ魅力に磨きをかけ、水源地域のポテンシャルを向上させていくことが必要である。

そこで、地域づくりを進めていく上で重要な「人材の育成」を図りつつ、水源地域の特長を活かした特色ある地域の形成を目指すことで、自立した個性ある地域づくりを推進する。

### ○ 多様な地域との交流による地域づくり

地域活性化のためには、水源地域の自治体や関係諸団体、地域住民等が相互に協力、連携しながら、協働して様々な取り組みを進めていくことが必要である。

また、淀川流域の支流で名張川流域の源流にあたる当該地域は、この地域から生み出される水資源を通じて下流の広い地域と密接につながっていることから、流域における関係者の水源地域に対する適切な理解のための協力、連携によって、取り組みを進めていくことも必要である。

そこで、地域内での交流を促進するとともに、水源地域のPRによって名張川流域や淀川流域等での上下流交流を促進し、多様な地域との交流による地域づくりを推進する。

## 取り組み項目

### 自然環境の保全、育成

河川やダム湖での水質保全や、ダム湖の周辺および上流の水源林を適切に保全、育成していくことなどによって、地域の美しい自然環境を保全、育成する。

### 環境保全に対する意識の啓発

地域住民や地域の利用者、下流受益者等に対し、地域の環境保全に関する意識の啓発を図る。

### 地域資源の活用

地域の自然環境や既存の取り組みなど、地域が有する既存資源の活用を図る。

### ダム・ダム湖の活用

ダム周辺に整備された施設や、ダム湖の湖面などの活用を図る。

### 地域情報の発信

地域の自然や観光・レクリエーション施設、イベント等の情報や、水源地域の担い手等の情報を効率的、効果的に発信する。

### 協働のためのしくみづくり

水源地域や流域全体での協働による地域づくりを推進するためのしくみなどを検討する。

## 具体方策

- ・河川の水質保全対策の推進
- ・ダム湖の水質保全対策の検討、実施
- ・間伐事業の推進
- ・間伐材等の利用方策の検討
- ・広葉樹への樹種転換の推進
- ・治山事業の継続実施
- ・地域住民による清掃や草刈りの実施
- ・地域住民による植栽の実施

- ・水質保全に対する意識の啓発（環境教育の推進）
- ・水源林の保全、育成に対する意識の啓発（環境教育の推進）
- ・ゴミ問題に対する意識の啓発

- ・農村体験（グリーンツーリズム）事業の継続実施
- ・クラインガルテン（市民農園）の継続運営
- ・河川親水空間の整備
- ・香露運の利用促進
- ・興香落の利用促進

- ・ダムを活かしたイベントの開催
- ・ダム湖の活用検討
- ・青蓮寺ダム、比奈知ダムを結ぶネットワークの検討

- ・ダム周辺マップの作成、配布
- ・地域情報の集約、PRシステムの構築検討

- ・水源地域内での協力、連携手法の検討
- ・地域づくりに係わる人材の育成、支援
- ・流域での協力、連携手法の検討

比奈知ダムでは、平成16年3月に「青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン」を策定し、水源地域の市町村と一体となった活性化の取り組み方針がまとめられた。

「青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン」の検討・策定は、以下に示す関係諸機関によって構成される「青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン策定会議」によって行われた。なお、同組織は規約等を設けない緩やかな組織として検討、策定にあたった。

- ・学識経験者
- ・水源地域自治体
- ・水源地域住民代表
- ・関係団体
- ・ダム管理者

また、同会議には、以下に示すオブザーバーが参加し、検討・策定に際しての助言・協力を行った。

#### <オブザーバー>

- ・国土交通省
- ・三重県
- ・奈良県

「青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン策定会議」では、ビジョンの承認、策定を行う「策定会議」と、策定会議に提示するビジョン(案)を検討する「連絡会」によって構成され、事務局は独立行政法人水資源機構木津川ダム総合管理所が担った。

(出典：青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン、平成16年3月)

#### <青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン策定会議>

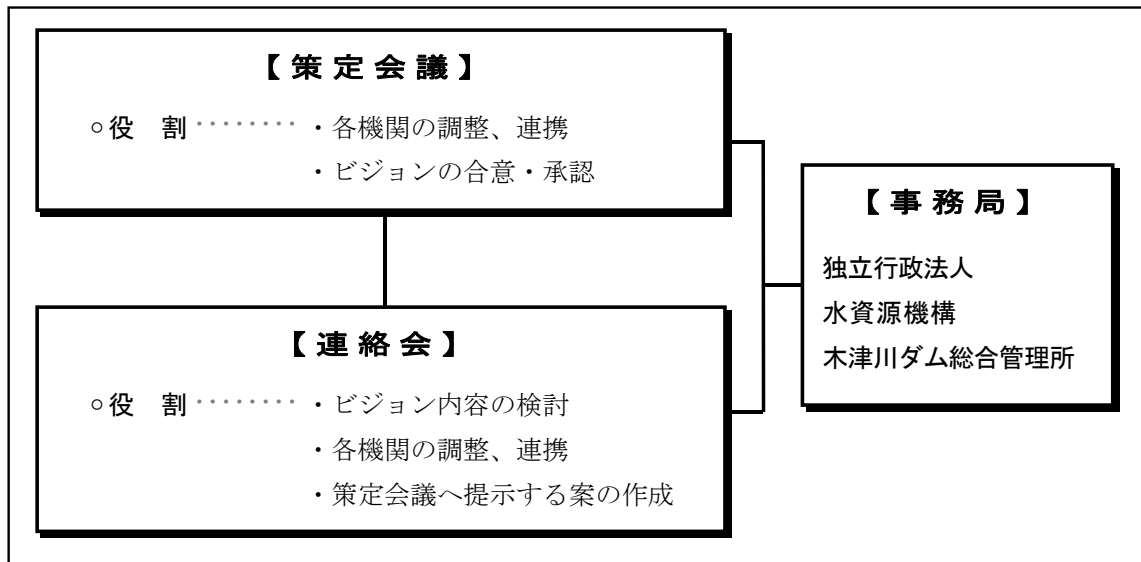


表 7.4.1-1 青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン策定会議のメンバー一覧

(出典：青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン、平成16年3月)

(平成16年2月25日時点)

構成機関	策定会議	連絡会
学識経験者	大学助教授	大学助教授
水源地域自治体		
名張市	市長	企画財政政策室長
曾爾村	村長	村づくり推進課長
御杖村	村長	地域振興課長
美杉村	村長	総務課長
水源地域住民代表		
名張市住民	—	名張市区長会会長
曾爾村住民	—	曾爾村総代会長
御杖村住民	—	御杖村区長会代表
美杉村住民	—	
関係団体等		
伊賀森林組合	—	組合長
名張川漁業協同組合	—	組合長
青蓮寺香落漁業協同組合	—	組合長
長瀬太郎生川漁業協同組合	—	組合長
名張商工会議所	—	会頭
曾爾村商工会	—	会長
曾爾村森林組合	—	組合長
曾爾村漁業協同組合	—	組合長
御杖村森林組合	—	理事長
御杖村商工会	—	会長
御杖村漁業組合	—	組合長
美杉村太郎生住民センター	—	所長
川の会・名張	—	事務局
わさびの会	—	会長
ダム管理者		
水資源機構 関西支社	支社長	利水者サービス課長
水資源機構 木津川ダム総合管理所	所長	管理課長 青蓮寺ダム管理所長 比奈知ダム管理所長

## 関係行政機関（オブザーバー）

国土交通省		
近畿地方整備局 河川部河川管理課	河川管理課長	河川管理課課長補佐
木津川上流河川事務所	所長	課長
淀川ダム統合管理事務所	所長	課長
三重県		
地域振興部	部長	主幹
奈良県		
企画部資源調整課	課長	主査

「青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン策定会議」は、図 7.3.2-1 に示すように、連絡会 3 回（平成 15 年 9 月 29 日、12 月 5 日、平成 16 年 1 月 28 日）、策定会議 1 回（平成 16 年 2 月 25 日）を開催した。この間に、水源地域住民を対象にしたアンケート調査や、連絡会メンバーへのアンケート調査、水源地域自治体への聞き取り調査などを実施し、その結果を踏まえて議論を重ね、「青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン」を策定した。

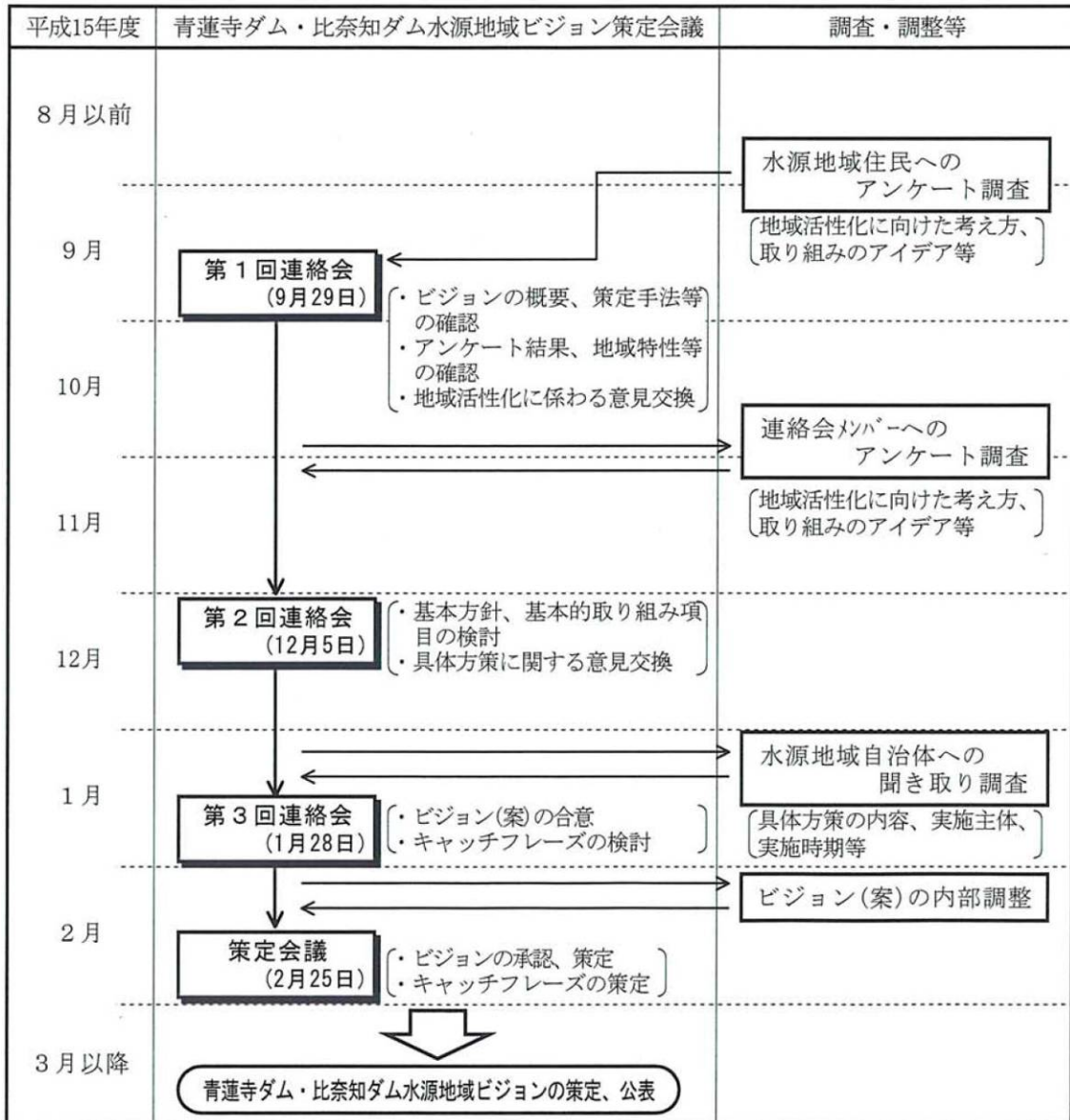


図 7.4.1-2 青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョンの策定経緯

(出典：青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン、平成 16 年 3 月)



## (2) 実行連絡会の実施状況

青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン実現に向けて、実行連絡会を毎年開催している。実行連絡会では、各団体の前年度の取り組み等の報告、及び、当該年度のイベント等の実施予定、その他意見の交換等が行われている。

表 7.4.1-2 に直近、5年の比奈知ダム水源地域ビジョン実行連絡会の実施状況を示す。

表 7.4.1-2 実行連絡会の実施状況

年度	実施日	内容
平成 20 年度	8 月 8 日	各団体の平成 19 年度の活動報告、及び、意見交換等が行われた。
平成 21 年度	8 月 27 日	各団体の平成 20 年度の活動報告、及び、意見交換等が行われた。
平成 22 年度	8 月 24 日	各団体の平成 21 年度の活動報告、及び、意見交換等が行われた。
平成 23 年度	8 月 24 日	各団体の平成 22 年度の活動報告、及び、意見交換等が行われた。
平成 24 年度	11 月 14 日	各団体の平成 23 年度の活動報告、及び、意見交換等が行われた。

### 7.4.2 水源地域の活動・啓発活動

#### (1) 比奈知ダム水源地域で実施されている主な地域活動

比奈知ダム施設見学会の開催に合わせて、地域が主体となって地域特産品・eco フェアを開催している。会場では、環境を守る活動やリサイクルについて学べるスペースを設け、楽しく環境を考えられる活動を行い、イベントを盛り上げている。



図 7.4.2-1 平成 24 年の状況(比奈知ダム環境新聞第 34 号より)



図 7.4.2-2 平成 23 年の状況(比奈知ダム環境新聞第 28 号より)

## (2) 管理者の地域に向けた活動等

比奈知ダム管理所では、地元小学校や地域住民及び関係機関等に対し積極的な見学者の受入等を行っており、ダムの役割等について説明を行っている。

平成20年度以降の実施状況は以下のとおりである。

表 7.4.2-1 平成20年度の見学会等実施状況

見学日時	団体名	人数
4月15日	フラッシュ放流関係者説明会	20名
4月23日	すずらん台小学校 (5年生)	47名
4月23日	小石原川ダム視察	4名
4月24日	つつじヶ丘小学校 (5年生)	102名
4月30日	美旗小学校 (5年生)	57名
5月21日	桔梗が丘小学校 (5年生)	8名
6月 5日	比奈知小学校 (3年生)	54名
6月12日	比奈知小学校 タイムカプセル打ち合わせ	2名
6月13日	奈良市水道部 (打ち合わせ)	2名
6月25日	比奈知小学校 (4年生)	55名
6月27日	奈良市水道部	80名
7月12日	ガサガサ調査隊	17名
7月16日	奈良県打ち合わせ	10名
7月18日	JICA研修生 (サウジアラビア)	11名
7月19日	上野生涯学習会	80名
7月19日	環境技術指導者施設見学	25名
7月29日	名張国際交流研修所	15名
8月 3日	比奈知ダム施設見学会	441名
8月 5日	奈良県バス見学	60名
8月 6日	川上ダム実習生	3名
8月 6日	伊賀法人会・税ウオッチング	50名
8月27日	記念植樹 (比奈知小学校3年生)	30名
10月 7日	百合が丘小学校 (3年生)	79名
10月15日	鯉江東小学校	120名
10月18日	比奈知公民館 (見学会)	117名
11月 1日	しぜん・ふしぎ・ワンダーランド	7名
11月25日	名張市健歩会	35名
12月 5日	大阪府水道部	8名
1月21日	名張市上下水道部	4名
見学者計		1,543名

表 7.4.2-2 平成21年度の見学会等実施状況

見学日時	団体名	人数
4月17日	桔梗が丘小学校 (5年生)	77名
4月24日	つつじヶ丘小学校 (5年生)	117名
4月28日	すずらん台小学校 (5年生)	41名
5月16日	伊賀地区共助会	30名
6月16日	比奈知小学校 (3年生)	42名
7月 2日	琵琶湖・淀川流域ミュージアム 連携会議	21名
7月12日	ガサガサ調査隊	14名
7月15日	愛知県企業庁 視察	6名
7月17日	JICA研修生 (サウジアラビア)	12名
7月29日	名張国際交流研修所	9名
7月31日	淀川水系流域委員	3名
8月 2日	比奈知ダム施設見学会	418名
8月 6日	H2 2年内定者	3名
8月 7日	名張西高等学校	20名
8月 7日	足羽川ダム	20名
8月23日	木津川上流管内河川レンジャー	20名
9月 3日	木津上研修生	7名
9月 7日	アドバンスコープ取材	2名
10月27日	大阪府水道部	15名
11月 5日	木津川をきれいにする会	30名
11月12日	中部電力 中学生研修	3名
11月16日	丹生ダム対策委員会	20名
11月26日	九州地方整備局 視察	3名
12月 3日	日本カヌー普及協会	3名
12月14日	国土交通省水資源部審議官 視察	2名
1月27日	設楽ダム水源地域対策協議会	19名
2月25日	土木研究所	4名
3月 4日	京都府営水道	2名
見学者計		963名

表 7.4.2-3 平成 22 年度の見学会等実施状況

見学日時	団体名	人数
4月13日	名張市施設見学会	27名
4月21日	桔梗が丘小学校 5 年生	70名
4月23日	つつじが丘小学校 5 年生	121名
4月23日	名張小学校 5 年生	49名
4月26日	国津小学校全校	51名
4月26日	すずらん台小学校 5 年生	27名
5月18日	名張市施設見学会	24名
6月 2日	名張市施設見学会	22名
6月24日	奈良市民	80名
7月 6日	名張市施設見学会	25名
7月 6日	JICA (ベトナム)	12名
7月 7日	ユーザー見学会	25名
8月 1日	比奈知ダム施設見学会	221名
8月 4日	奈良県市民施設見学会	35名
8月10日	食の安全地域リーダー	34名
10月12日	大阪市城東区鯉江東小5,6年生	130名
11月 5日	足羽川ダム地権者	26名
11月10日	海部土地改良区	30名
11月10日	近畿建設協会	5名
11月11日	奈良市水道OB	25名
	見学者計	1,039名

表 7.4.2-4 平成 23 年度の見学会等実施状況

見学日時	団体名	人数
4月13日	名張市施設見学会	25名
4月19日	すずらん小学校	47名
4月19日	桔梗が丘小学校	77名
4月21日	つつじが丘小学校	120名
4月22日	名張小学校	42名
5月25日	名張市施設見学会	25名
6月24日	奈良市施設見学	80名
7月 5日	名張市施設見学会	25名
7月11日	比奈知小学校	50名
7月12日	名張警察	7名
7月26日	オランダ留学生見学会	6名
7月31日	比奈知ダム施設見学会	203名
8月10日	名張市内小学校	5名
8月25日	体験入社	6名
10月18日	名張市白ばら会	20名
10月24日	JICA研修	8名
11月 8日	大阪府富田林土木事務所	9名
3月 5日	JICA研修 (ナイジェリア)	3名
3月28日	ダイケーア見学会	15名
3月29日	河内長野グリーンツーリズム	16名
	見学者計	789名

表 7.4.2-5 平成 24 年度の見学会等実施状況

見学日時	団体名	人数
4月10日	宇陀市室生福祉センター	56名
4月11日	宇陀市室生福祉センター	56名
4月12日	宇陀市室生福祉センター	90名
4月24日	すずらん台小学校	44名
4月27日	桔梗が丘小学校	88名
5月 7日	つつじが丘小学校	102名
6月 8日	淀川ダム統管	6名
6月22日	奈良市水道局	90名
7月 4日	名張市教員	5名
7月12日	奈良市水道局	4名
7月24日	名張市 (オランダ留学生)	5名
7月29日	施設見学会	158名
8月 1日	奈良県水道施設見学会	35名
8月10日	立命館大学	15名
9月12日	三重県商工会議所	26名
9月24日	記者クラブ見学会	1名
10月 3日	近畿地整	5名
10月10日	鯉江東小学校	130名
10月15日	JICA研修 (中国訪問)	15名
10月16日	御杖小学校	46名
10月19日	JICA筑波 (各国訪問)	15名
11月 8日	JICA関西 (各国訪問)	10名
1月20日	木津川上流発見講座	17名
2月22日	筑後川ダム統管	6名
2月22日	一庫ダム放流連絡会	11名
	見学者計	1,036名



比奈知ダム施設見学会 (H22)



JICA (ベトナム) (H22)



比奈知ダム施設見学会 (H23)



比奈知ダム施設見学会 (H24)

図 7.4.2-3 見学会の様子

### 7.4.3 地域とダム管理者との関わりの評価

以上のように比奈知ダムでは、ダムが有する利用ポテンシャル（開放的な空間や湖面など）や地域の水源としての役割等を活かし、水源地の活性化を図るため、青連寺ダムと連携し「青連寺ダム・比奈知ダム水源地ビジョン」を策定している。

ダムを管理する水資源機構では、関係機関や地域と連携を図りながら、水源地ビジョンに基づき、実行連絡会やダム見学等を継続的に実施しており、地域の活性化に貢献している。

## 7.5 ダムの周辺状況

### 7.5.1 ダム周辺環境整備事業の状況

比奈知ダムでは淀川水系河川空間管理計画を踏まえて、湖水にふれあうレクリエーション広場の造成を目標とし、ダム湖畔で憩える場やレクリエーションの場等の整備を実施している。

比奈知ダムは、名張駅からわずか5km程度の位置にあり、周辺には夏見廃寺跡や美旗古墳群などの歴史・文化遺産もあり、また、室生赤目青山国定公園といった自然資源も豊かな都市域に隣接した地域である。

比奈知ダム周辺の状況と整備方針を表7.5.1-1に示す。

表 7.5.1-1 比奈知ダム周辺の状況と整備方針

立地条件	名張市は大阪通勤圏の東端にあり、住宅都市として近年人口の増加が著しく、生活都市として将来性に期待される。
自然環境	内陸性気候で生活し易い。付近は山で囲まれており、山相は杉、桧が多い2次林（造林）である。名張川が流れ、緑も多く自然環境に恵まれている。
歴史・文化	美旗古墳群や伊賀流忍者の里である。また、伊勢街道が通り主要道として人の往来が多い。藤堂藩の城下町であり、歴史的遺産が多い。
観光	観光資源としては、室生地域のダムや室生寺、赤目四十八滝、青山高原、香落溪、青蓮寺ダム、また名張市近郊では弥勒寺、藤堂屋敷等が多く存在している。
交通施設	近鉄大阪線や国道165号が名張市内を通り、近くには名阪国道や国道368号も通り交通は便利である。
比奈知ダムの観光	比奈知ダムは名張市から近い中規模な都市型ダムである。観光名所の一環として人々に巡回して貰えるようダム周辺を整備し、地域振興に役立てようとするものである。

出典：「平成15年度 比奈知ダム事後評価検討業務報告書」、7章 水源地域動態

また、周辺整備地区の位置を図7.5.1-1に、施設概要を表7.5.1-2に示す。

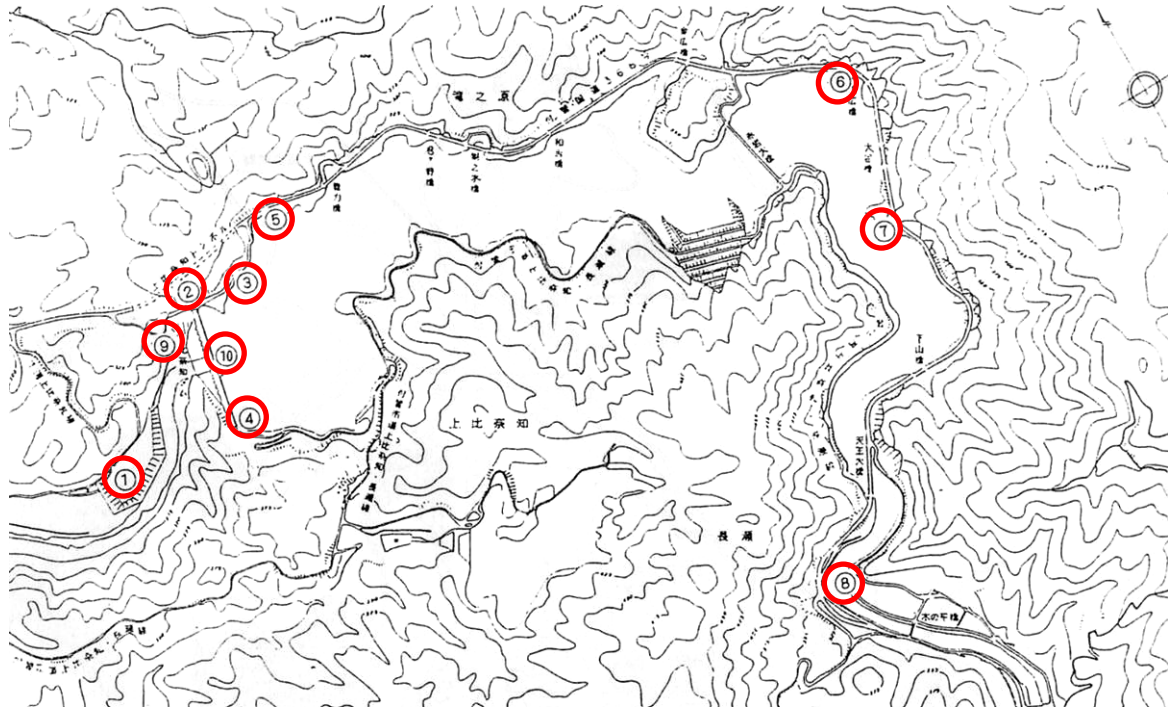


図 7.5.1-1 ダム周辺環境整備 位置図

出典：「平成 15 年度 比奈知ダム事後評価検討業務報告書」、7章 水源地域動態

表 7.5.1-2 施設概要

地区名	施設概要	管理者
①下流親水公園	四阿2基、パーゴラ1基、トイレ1棟、園路、ベンチ6基、駐車場、水飲み場1基、照明施設、擬木橋3基、植栽1式（せせらぎ水路L=250m）	名張市
⑤登力展望公園	四阿1基、ベンチ7基、展望台、駐車場、ボードウォークL=250m、植栽1式	名張市
⑥やなひろ文化財公園	四阿1基、縁台3基、ベンチ6基、駐車場、磨崖物1体、植栽1式	名張市
⑧長瀬河川親水公園	親水護岸L=120m、駐車場、植栽1式	名張市
②ダム展望広場	上流：展示スペース、パーゴラ1基、ベンチ9基、時計塔1基、駐車場、水飲み場1基、植栽1式 下流：トイレ1棟、四阿1基、ベンチ6基、駐車場、ボードウォークL=40m、植栽1式	機構
③右岸上流遊歩道	遊歩道L=200m、ボードウォークL=75 m、四阿1基、ベンチ5基、駐車場、植栽1式	機構
⑦大谷地区	四阿1基、パーゴラ1基、擬木ベンチ11基、遊歩道、駐車場、擬木フェンス、植栽1式	機構
⑨右岸下流広場	照明施設、ライトアップ照明1基、植栽1式	機構
⑩ダム天端	歩道、バルコニー	機構

出典：「平成 15 年度 比奈知ダム事後評価検討業務報告書」、7章 水源地域動態

主要地点の整備状況は表 7.5.1-3 のとおりである。

表 7.5.1-3 主要地点の整備状況

下流親水公園	土捨場跡地を整備して中央に人工水路を造り、ダムの水を流し下流の農業用水として利用される。ダムを望める場所でせせらぎ水路を中心とし、四阿や園路を配置し自然と親しみ水辺における憩いの場となる公園とした。
ダム展望広場	ダム堤体への玄関口として整備し、ダム全容が見渡せる。上流には展示パネル施設を設置し機構事業の説明、ダムの役割等の広報を行うとともに、駐車場や四阿等を整備した。
登力展望公園	展望台からは比奈知ダム及び周辺を一望でき、貯水池への開放感を与える。公園からはダムへ続く遊歩道を配置した。
やなひろ文化財公園	周辺を一望できる見晴らしのよい場所に、川原にあった線刻不動明王を公園のシンボルとして移設した。

出典：「平成 23 年度 比奈知ダム事後評価検討業務報告書」、7章 水源地域動態



図 7.5.1-2 主要地点の整備状況

参考：「比奈知ダムパンフレット：比奈知ダム管理所

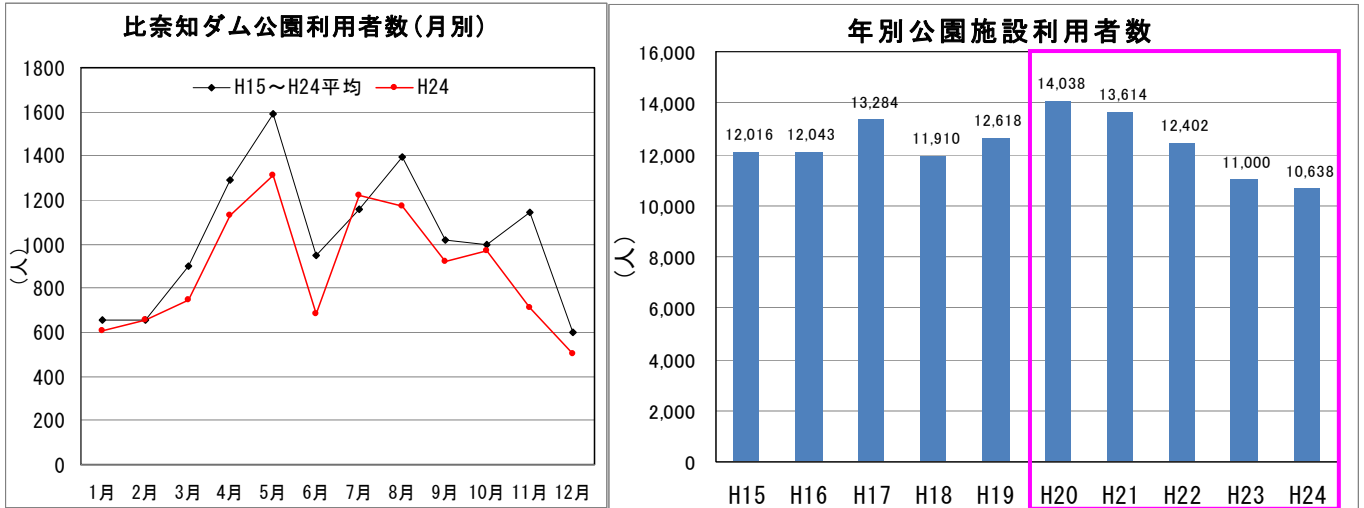


### 7.5.2 ダム周辺施設の利用状況

比奈知ダム周辺の公園利用者数は以下のとおりであった。

公園利用者数は、平成20年以降減少傾向にあり、平成24年は10,638人であった。

利用者は5月、及び、7～8月の夏季に多い傾向にある。



※公園利用者数は、各日のダム周辺及び下流親水公園の駐車台数からまとめたものであり、実際の人数とは異なる。

図 7.5.2-1 比奈知ダム周辺の公園利用者数

(データ出典：比奈知ダム管理所)

### 7.5.3 ダム及び周辺のイベント等の開催状況

#### (1) イベント等の実施状況

比奈知ダム周辺において地域住民やNPO等市民団体と協力して名張ひなち湖紅葉マラソン大会、名張クリーン大作戦など各種イベントが開催されている。

表 7.5.3-1 比奈知ダム周辺のイベント等の開催状況【名張ひなち湖紅葉マラソン大会】

開催期間	行事等名	開催場所	参加者	行事内容
平成 20 年 11 月 16 日	2008 名張ひなち湖 紅葉マラソン大会	名張市 ひなち湖	名張市民他 545 名参加	毎年恒例のマラソン大会で、ひなち湖周辺道路に、2.0km・3.0km・5.0km・10.0km のマラソンの他、ジョギング 2km のコースが設けられている。小学生から 60 歳以上の高齢者まで幅広い年齢層の市民が参加。
平成 21 年 11 月 15 日	2009 名張ひなち湖 紅葉マラソン大会	名張市 ひなち湖	名張市民他 638 名参加	
平成 22 年 11 月 21 日	2010 名張ひなち湖 紅葉マラソン大会	名張市 ひなち湖	名張市民他 467 名参加	
平成 23 年 11 月 21 日	2011 名張ひなち湖 紅葉マラソン大会	名張市 ひなち湖	名張市民他 602 名参加	
平成 24 年 11 月 18 日	2012 名張ひなち湖 紅葉マラソン大会	名張市 ひなち湖	名張市民他 約 600 名参加	



図 7.5.3-1 マラソン大会開催状況  
(写真:平成 24 年)



図 7.5.3-2 マラソン大会の案内広告(平成 22 年時)

表 7.5.3-2 比奈知ダム周辺のイベント等の開催状況【名張クリーン大作戦】

開催期間	行事等名	開催場所	主催	参加者	行事内容
平成 20 年 6 月 1 日	名張クリーン 大作戦	名張市 名張川河川敷	名張クリーン大作 戦実行委員会	名張市民他 6,034 名参加	住民一人ひとりの ゴミに対する意識 と名張を綺麗にする 意識を高めること を目的として、 流域住民の人たち と一緒に貯水池周 辺の美化活動を行 っている。
平成 21 年 5 月 17 日	名張クリーン 大作戦	名張市 名張川河川敷	名張クリーン大作 戦実行委員会	名張市民他 6 多数参加	
平成 22 年 5 月 16 日	名張クリーン 大作戦	名張市 名張川河川敷	名張クリーン大作 戦実行委員会	名張市民他多 数参加	
平成 23 年 6 月 5 日	名張クリーン 大作戦	名張市 名張川河川敷	名張クリーン大作 戦実行委員会	名張市民他多 数参加	
平成 24 年 6 月 3 日	名張クリーン 大作戦	名張市 名張川河川敷	名張クリーン大作 戦実行委員会	名張市民他多 数参加	



図 7.5.3-3 名張クリーン大作戦の実施状況(写真：平成 24 年)

表 7.5.3-3 比奈知ダム周辺のイベント等の開催状況【クラシックカーラリー】

開催期間	行事等名	開催場所	参加者	行事内容
平成 21 年 4 月 20 日	ラ・フェスタプリマ ヴィラ 2009	比奈知ダム 湖周辺	多数	クラシックカーによる 1000 マイル ラリー。比奈知ダム堤体道路にも 個性豊かなクラシックカーが訪 れ、迫力あるラリーを行っている。 桜と鯉のぼりが舞うコースの沿道 には、大切に整備された 1920～ 1960 年代の名車と、ドライバーと の息の合ったレースを観戦しよ うと多くの方が集まり、賑やかな声 援を送っていました。
平成 22 年 4 月 19 日	ラ・フェスタプリマ ヴィラ 2010	比奈知ダム 湖周辺	多数	
平成 23 年 4 月 18 日	ラ・フェスタプリマ ヴィラ 2011	比奈知ダム 湖周辺	多数	
平成 24 年 4 月 23 日	ラ・フェスタプリマ ヴィラ 2012	比奈知ダム 湖周辺	多数	

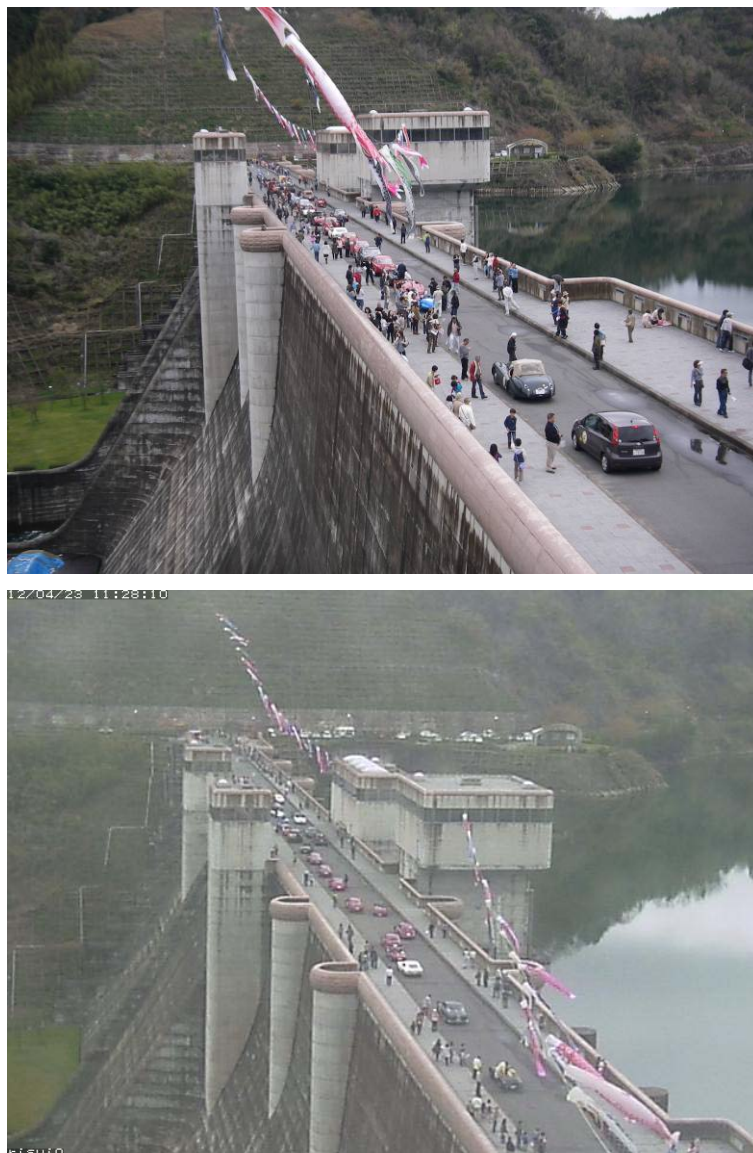


図 7.5.3-4 クラシックカーラリーの実施状況(写真：平成 24 年)

表 7.5.3-4 比奈知ダム周辺のイベント等の開催状況【ホタル鑑賞】

開催期間	行事等名	開催場所	参加者	行事内容
平成 20 年 6 月 19 日	ホタル鑑賞会	比奈知ダム下流 親水公園内	100 名	比奈知ダム下流親水公園せせらぎ水路にはゲンジボタルが生息し、6月上旬～下旬頃には飛ぶ姿が見られる。そこで、ホタル飛翔期間中は園内の照明を減灯して、ホタルや夜空を楽しめるようにすると共に、ホタル鑑賞会を開催し、ブース内で環境保全活動や生息しているゲンジボタルについて簡単な説明を行っている。
平成 21 年 6 月 16, 18 日	ホタル鑑賞会	比奈知ダム下流 親水公園内	140 名	
平成 22 年 6 月 22, 24 日	ホタル鑑賞会	比奈知ダム下流 親水公園内	多数	
平成 23 年 6 月 21 日	ホタル鑑賞会	比奈知ダム下流 親水公園内	多数	
平成 24 年 6 月 21 日	ホタル鑑賞会	比奈知ダム下流 親水公園内	多数	



図 7.5.3-5 ホタル鑑賞会の実施状況(写真：平成 24 年)

表 7.5.3-5 比奈知ダム周辺のイベント等の開催状況【鯉のぼりの設置】

開催期間	行事等名	開催場所	参加者	行事内容
毎年 4月下旬頃 ～5月連休期間中	鯉のぼりの 設置	比奈知ダム (ダム天端)	—	比奈知ダムでは、毎年、鯉のぼりをダム堤頂に設置している。設置する鯉のぼりは、名張市民の方からご寄贈して頂いたものである。鯉のぼりが悠々と泳ぐ姿は、ダム展望広場や下流親水公園等から眺める事ができる。



図 7.5.3-6 鯉のぼり設置時の状況

表 7.5.3-6 比奈知ダム周辺のイベント等の開催状況【環境浄化微生物資材の製作実習講習】

開催期間	行事等名	開催場所	参加者	行事内容
平成 22 年 10月 12, 19 日	環境浄化微生物資材の製作実習講習	比奈知公民館	10 人	比奈知公民館において地域住民に対して環境浄化微生物資材（えひめ ai-2）の製作実習講習を行い、あわせて環境保全等の必要性について説明を行っている。
平成 23 年 10月 11, 18 日	環境浄化微生物資材の製作実習講習	比奈知公民館	25 人	
平成 24 年 10月 2, 9 日	環境浄化微生物資材の製作実習講習	比奈知公民館	約 20 人	



図 7.5.3-7 環境浄化微生物資材の製作実習講習の実施状況(平成 24 年)

表 7.5.3-7 比奈知ダム周辺のイベント等の開催状況【その他イベント等】

実施日	行事等名	開催場所	主催者	参加人数	行事内容
平成 20 年 6 月 24 日	名張川源流の碑除幕式	奈良県宇陀郡御杖村菅野	水資源機構 ※協賛：奈良県宇陀郡御杖村・御杖村菅野財産区	約 20 名	比奈知ダム貯水池の源流である菅野川上流で「源流の碑」の建立と除幕式を行った。
平成 20 年 8 月 27 日	比奈知ダム管理 10 周年記念植樹	比奈知ダム管理所	水資源機構 ※協賛：比奈知小学校	約 50 名	比奈知ダム 10 周年イベントとして、ダム完成年と同年生まれの児童によるモミジの記念植樹、タイムカプセルの収納の式典を実施した。
平成21年 7月12日	ガサガサ調査隊	比奈知ダム下流親水公園（せせらぎ水路）	NPO 法人地域と自然	33 名	小学生の児童を対象とした自然体験学習会形式による生物調査を行った。



図 7.5.3-8 名張川源流の碑 除幕式(平成 20 年 6 月 24 日)



図 7.5.3-9 比奈知ダム管理 10 周年記念植樹(平成 20 年 8 月 27 日)

(3) ダムカードの配布

イベント参加者やダム来訪者にダムカードを配布し、ダムへの関心や興味をもってもらい取り組みも行っている。

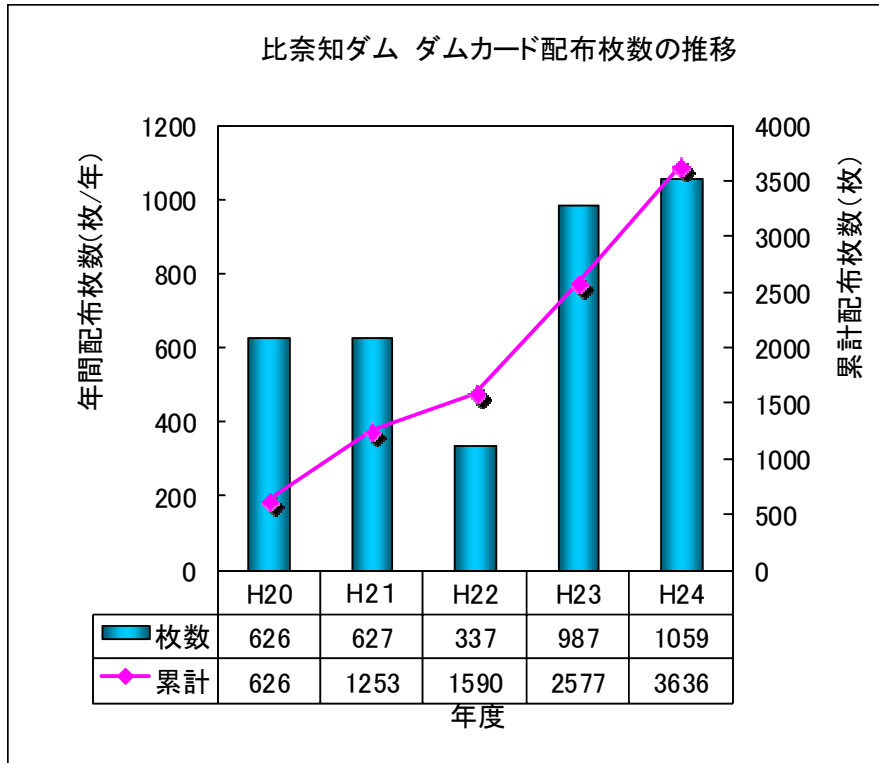
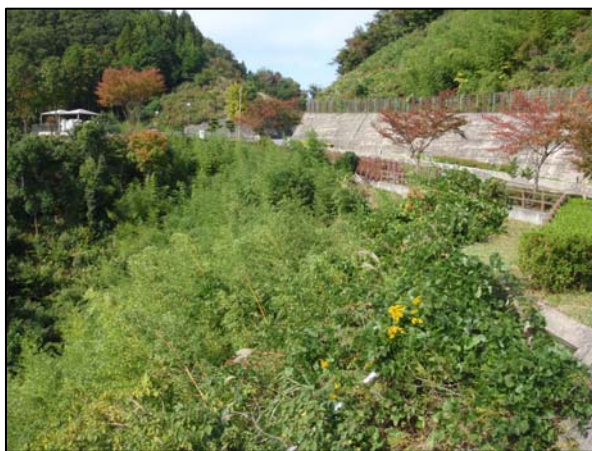


図 7.5.3-9 ダムカード配布状況

(4) その他の活動

比奈知ダムでは、ダム管理所周辺において植生監視（支障木、景観配慮、外来種対策のための伐木・伐竹工事）を定期的に行っている。



施工前状況 (H24. 10. 25)



完成後状況 (H25. 6. 30)

図 7.5.3-9 比奈知ダム植生監視実施状況（ダム展望広場下流斜面）



#### 7.5.4 ダム周辺利用の評価

比奈知ダムでは、ダム周辺施設やダム湖を活かしたイベントやダム施設の見学会等が数多く行われている。また、周辺各地区における地域活性化の取り組みや、地域団体による環境美化、環境教育清掃等も盛んに行われている。

ダム管理者である水資源機構は、地域活性化や啓発等に資するため、ダムや周辺施設を利用したイベントや活動等の開催支援を積極的、継続的に実施していく役割を担っていると考えられる。また、地域活動の支援や連携を行い、地域とのパートナーシップ構築を図っていくことも重要である。

## 7.6 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

### 7.6.1 ダム湖利用実態の調査

平成 21 年度に実施した河川水辺の国勢調査(ダム湖利用実態調査)の調査結果は図 7.6.1-1 に示すとおりである。

河川水辺の国勢調査(年間7日間のダム湖利用実態調査)から年間利用者数を推計すると、平成 21 年度の年間利用者数は約 5 万人であり、平成 12 年以降横ばいとなっている。最も多い利用方法は「散策」であった。

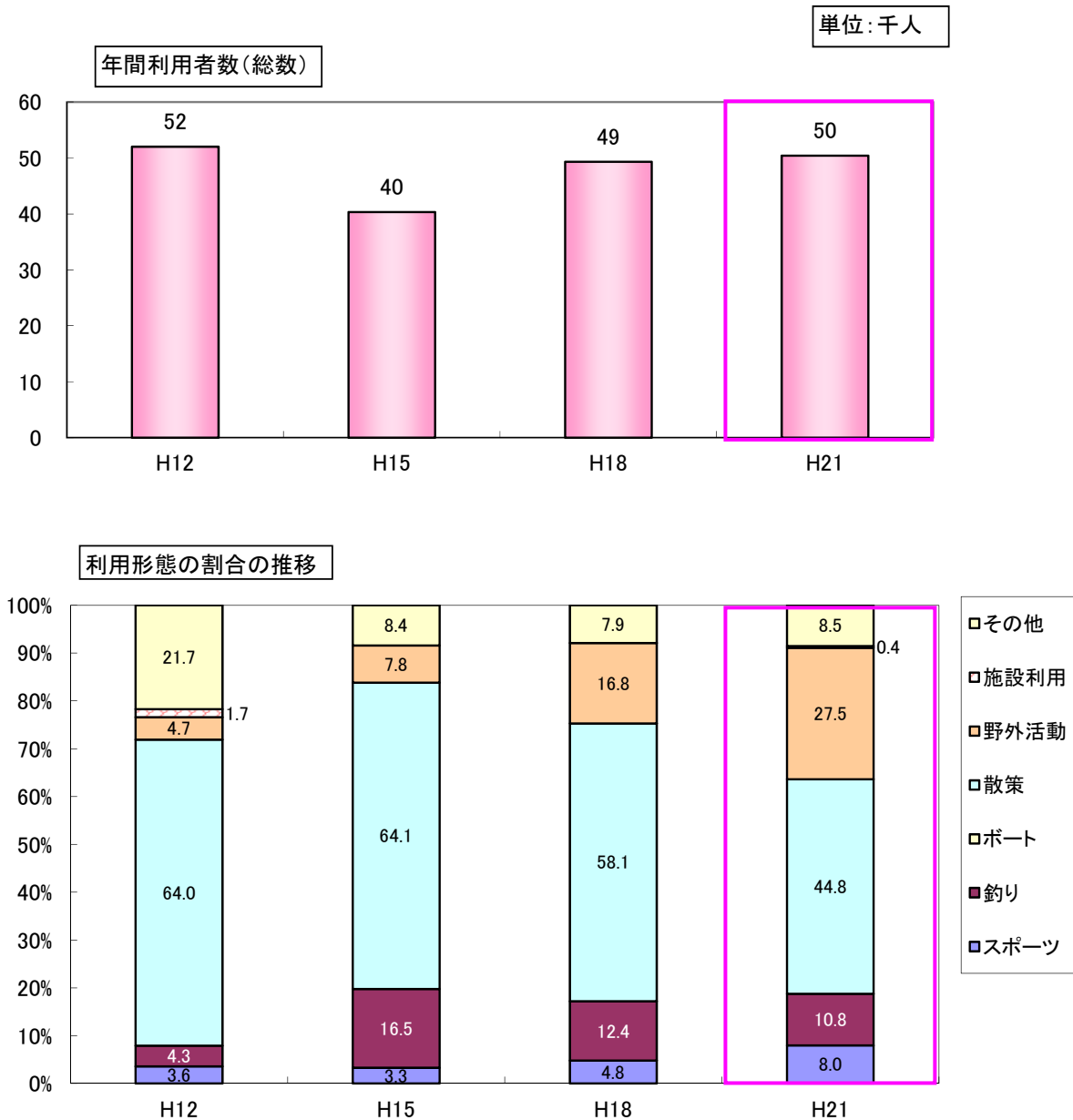


図 7.6.1-1 比奈知ダムの利用者の状況

## 【参考：ダム湖利用実態調査の調査方法及び年間利用者数の推計方法】

## 1. 調査項目・調査時期

表-(1) 調査項目、目的および作成する様式

調査項目	目的	調査実施日等
利用者カウント調査	年間利用者数の推計に用いる基礎データ（サンプル日における利用者数）の収集。 あらかじめ設定した「ブロック区分※1」毎に調査を行った。	表-(2)に示す調査実施日（合計7日間）において実施。
利用者アンケート調査	ダム湖の利用目的、感想等の把握および年間利用者数の推計にあたっての基礎データの収集。	
イベント調査	ダム湖における利用者数の影響要因である各種イベントの開催状況および参加人数の把握。	調査実施年の3月1日から翌年2月28日までの1年間における状況を聞き取り調査等により実施。
施設利用者数調査（H18.21のみ実施）	ダム湖周辺にある施設での日別利用者数の把握	調査実施年の3月1日から翌年2月28日までの1年間において実施。

※1 ブロック区分：利用者カウント調査において利用者数の集計を行う地理的単位です。基本的には、調査対象区域内の利用環境を踏まえて、調査対象区域を複数のエリアに分割

表-(2) 調査実施日一覧

番号	季節区分	平日休日区分	各年の調査実施日等	備考
1	春季	休日	4月29日（祝日）	ただし、参加人数100人以上のイベント、悪天候、施設の休館日と重なったときは、適宜直近の日で設定
2			5月5日（祝日）	
3		平日	5月中旬の平日	
4	夏季	休日	7月最終日曜日	
5		平日	8月上旬の平日	
6	秋季	休日	11月3日（祝日）	
7	冬季	休日	1月上旬の休日	

## 2. 調査方法

## (1) 利用者カウント調査

- ・調査区域内の利用者数を現地で実測する方法である。
- ・利用者数は、設定したブロック毎に、時間帯別、性別、年齢別、利用区分別に人数をカウント。
- ・原則として、日の出から日没までの間に2時間毎で実施する。
- ・各調査時刻における観測値の合計を一日の利用者数とみなす。

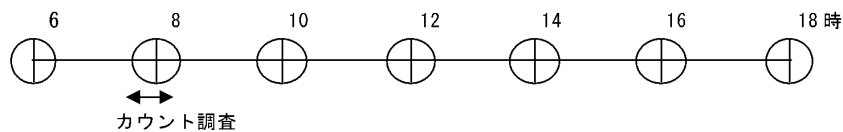


図-(1) 利用者カウント調査の実施間隔の考え方

## (2) 利用者アンケート調査

本調査は、利用者に対して直接質問し、回答を得ることにより実施。調査実施日は、利用者カウント調査実施日(7日間)とする。必要なアンケート対象者数(最少サンプル数)は、各調査実施日において20人以上を目標とした。

【出典：平成21年度ダム湖利用実態調査業務 報告書】

## (3) イベント調査

本調査は、ダム管理者や施設の運営主体等から、調査区域内において開催されたイベントについて、聞き取りを行うことにより調査を実施した。

表-(3) 対象とするイベントの考え方

対象とするイベント等	
期 間	当該年3月から翌年2月の1年間において開催されたイベント等とした。
時 間 帯	対象とする時間帯は特に制限しない。
規 模	参加人数が概ね100人以上となるイベント等とした。
種 類 等	対象とするイベント等の種類や実施・運営主体等は特に制限しない。

## 3. 年間利用者数の推計方法

各季節別実施した合計7回の調査(カウント)結果とイベント調査結果をもとに、ダム毎に1年間のダム湖利用者数の推計を行った。

年間の利用者数の推計に当たっては、季節、休日と平日の違いを考慮し、各季節の休日、土曜日、平日の利用者数(実測値を基本とする)を原単位とし、それに各季節の休日・土曜日・平日の日数を乗じた推計値にイベント調査結果を加えることにより、年間利用者数の推計を行った。

なお、平成9年度以前の調査については、イベント調査は行われていないため、上記のイベント人数の加算は行っていない。

## 【曜日係数】

H15まで：各季節の土曜日および秋季・冬季の平日については実測値がないため、平成4年度に行った補足調査結果より得られた全国平均の比率を乗じる(土曜日=0.37×休日、平日=0.18×休日)ことにより、原単位を求めた。

H18 : H15まで使用した曜日係数は平成4年に設定されたものであり、その間に休暇の取得等に関する社会的な考え方や制度が変化した可能性が考えられたため、H18に新しい曜日係数設定を目的とした追加調査を行った。結果、平成18年は、土曜係数：0.41、平日係数：0.22とされた。

表-(4) 平成21年度高山ダム年間利用者数の推定【平成18年度の係数を使用して試算】

季節	曜日区分	調査日別利用者数(実測値)	原単位			日数			季節別利用者数(推計値)	イベント参加人数(実測値)	年間利用者数(推計値)
			休日	平日	土曜(*1)	休日	平日	土曜			
春季	休日1	680	841(*2)	1,329	345	19	63	13	100,202	7,290	250,426
	休日2	1,002									
	平日	1,329									
夏季	休日	2,094	2,904	947	859	14	65	13	102,032	7,290	250,426
	平日	947									
秋季	休日	583	583	128(*3)	239	19	59	13	21,752		
冬季	休日	539	539	119(*3)	221	17	60	13	19,151		

\*1：休日×0.41

\*2：春季休日1と春季休日2の平均値

\*3：休日×0.22

【出典：平成21年度ダム湖利用実態調査業務 報告書】

### 7.6.2 比奈知ダム利用者の特性

ダム湖利用実態調査時に行った利用者アンケート調査結果から、比奈知ダム利用者の特性を整理した。アンケートの回答者数は、以下のとおりである。

平成 18 年度：114 人 平成 21 年度：105 人

#### (1) 利用者の属性

利用者層は、平成 18 年度は 30 歳代、60 歳代が多く、平成 21 年度は 50 歳代が最も多いが、その他の年代の利用者も適度にあり、幅広い年代に利用されている。

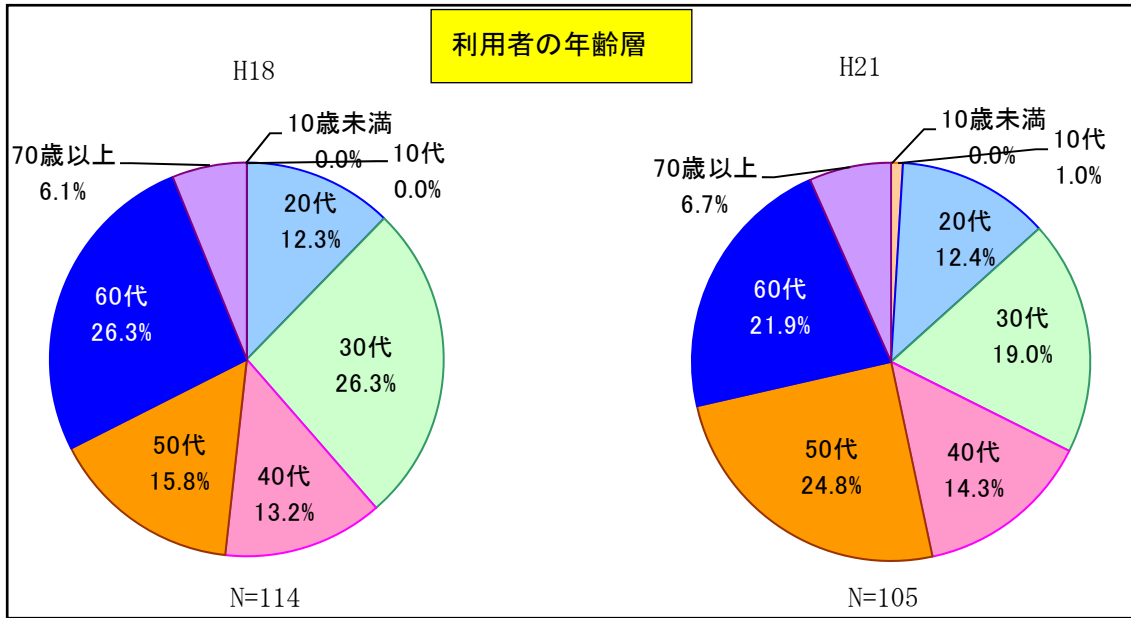


図 7.6.2-1 利用者の年齢層

#### (2) 利用者の居住地等

来訪者の居住地は三重県が最も多く、約 8 割を占めている。次いで奈良県、大阪府、京都府が多く、近畿圏からの来訪者が約 95%以上を占めている。

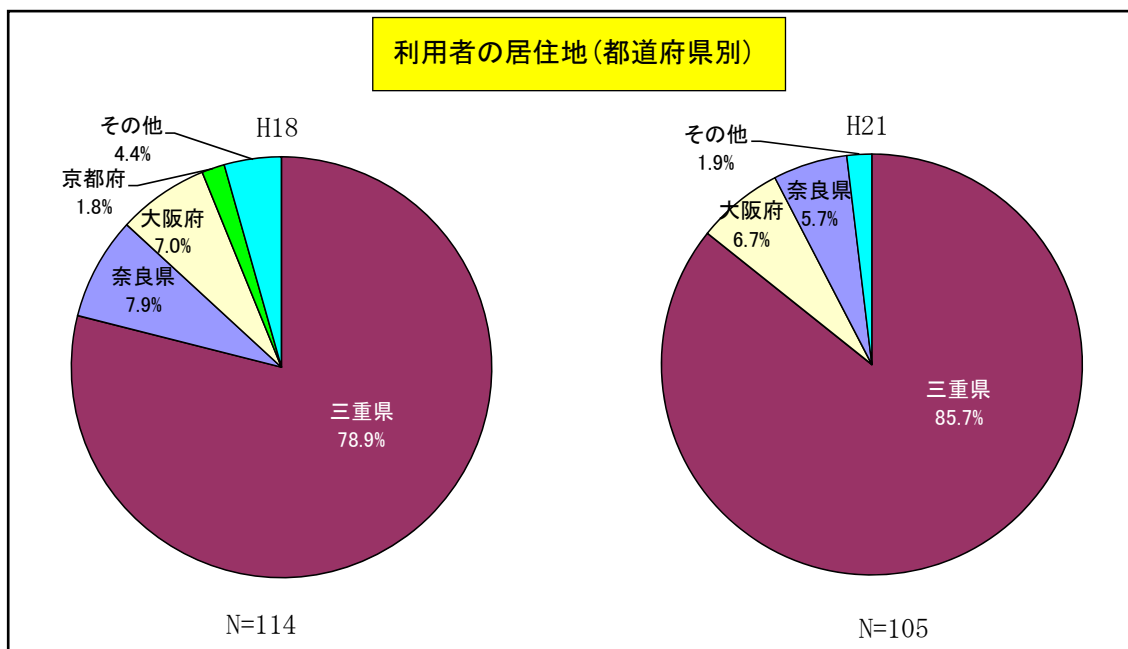


図 7.6.2-2 利用者の居住地(都道府県別)

(3) 来訪経験

比奈知ダムを訪れた利用者のうち、約8割をリピーターが占めている。

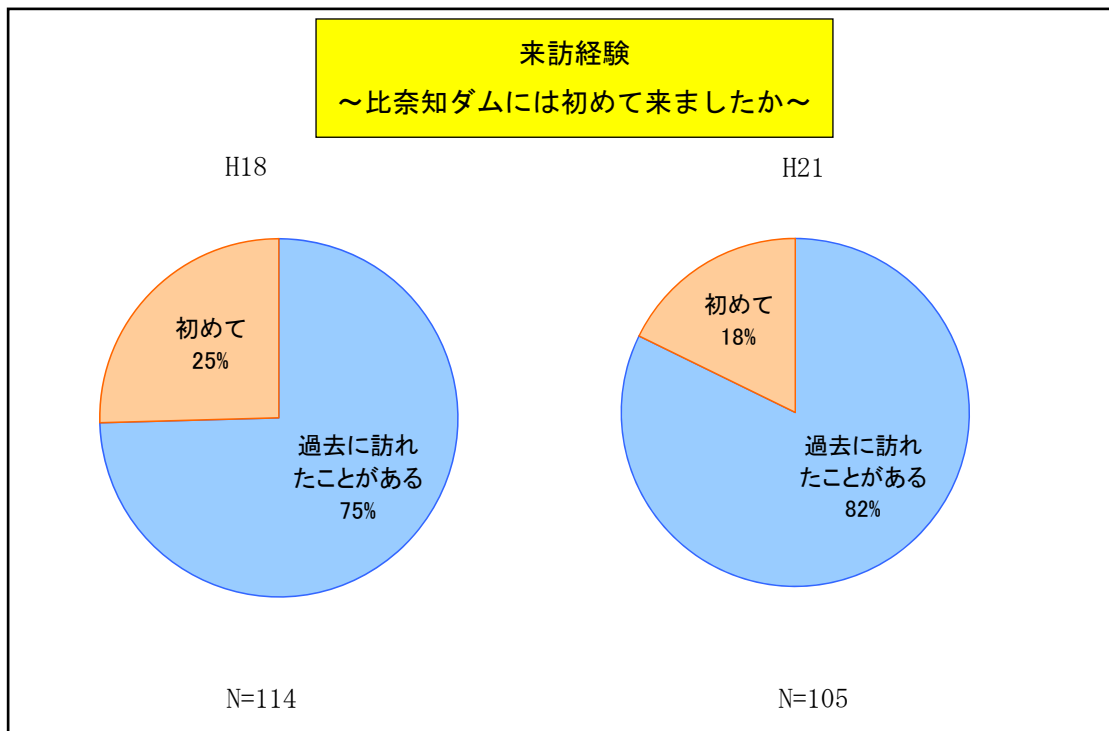


図 7.6.2-3 利用者の来訪経験

(4) 同伴者

平成 18 年度、平成 21 年度ともに家族と来る利用者が最も多い。次いで単独での来訪が多い。家族、単独、友人等で全体の約 95%以上を占めている。

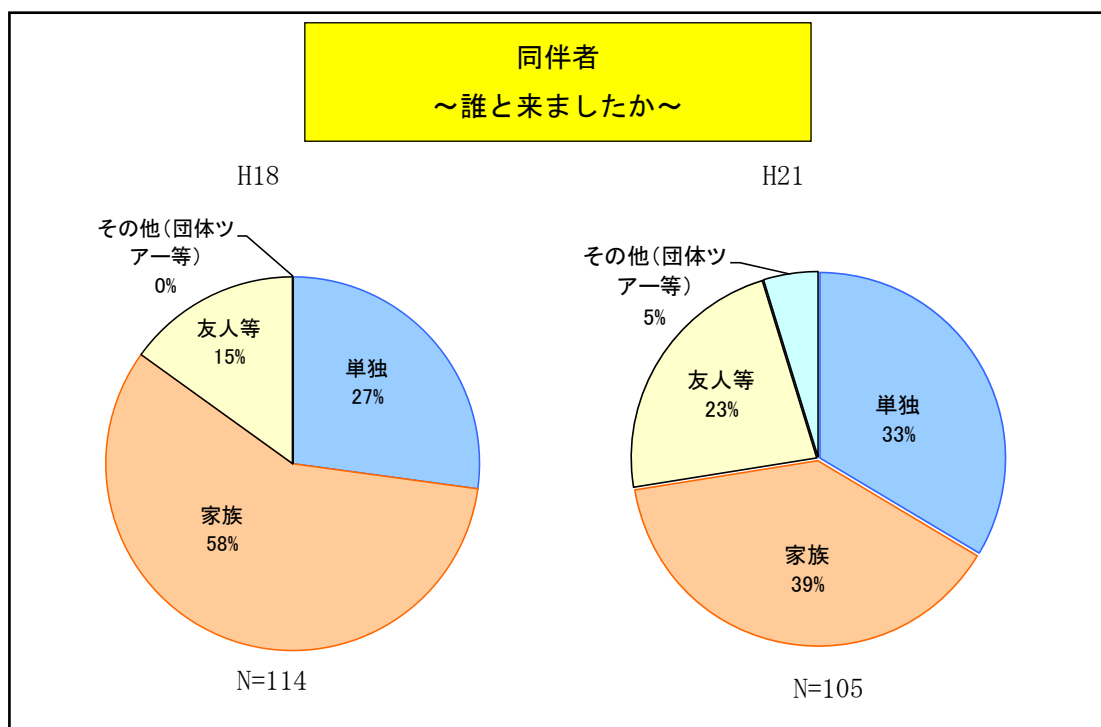


図 7.6.2-4 利用者の同伴者

(5) 来訪目的

比奈知ダムを訪れた主な目的は、「レジャー」が最も多く、次いで「スポーツ」となっている。

その他としては、「休憩」や「散歩(犬の散歩など)」といった回答が多かった。

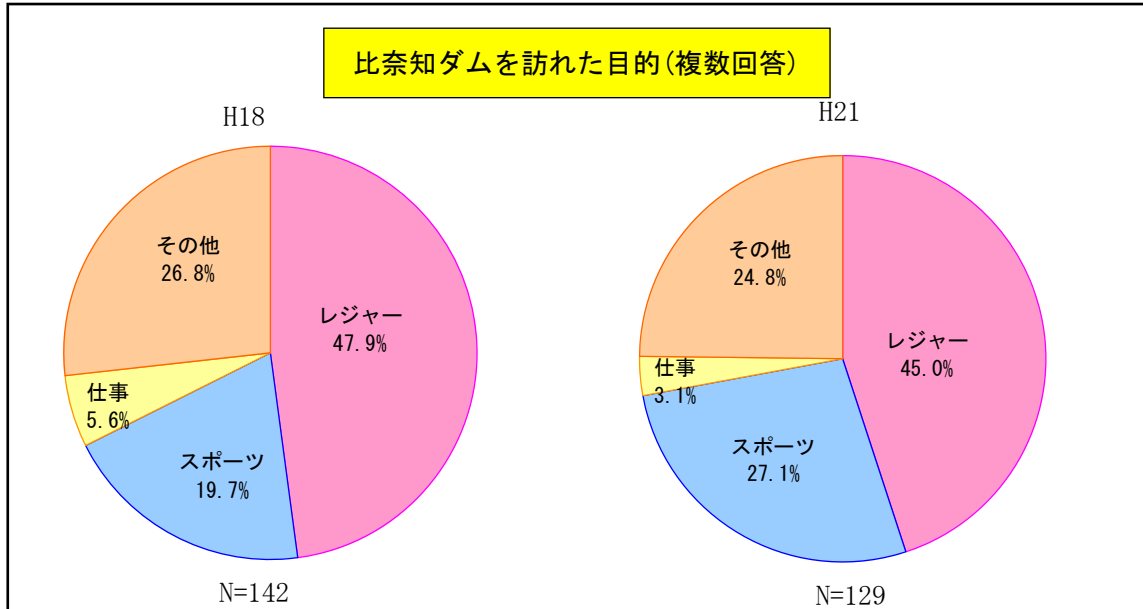


図 7.6.2-5 来訪目的

(6) 利用者の感想

比奈知ダムを利用した人の感想は、「満足している」、「まあ満足している」が全体の約8割を占めている。

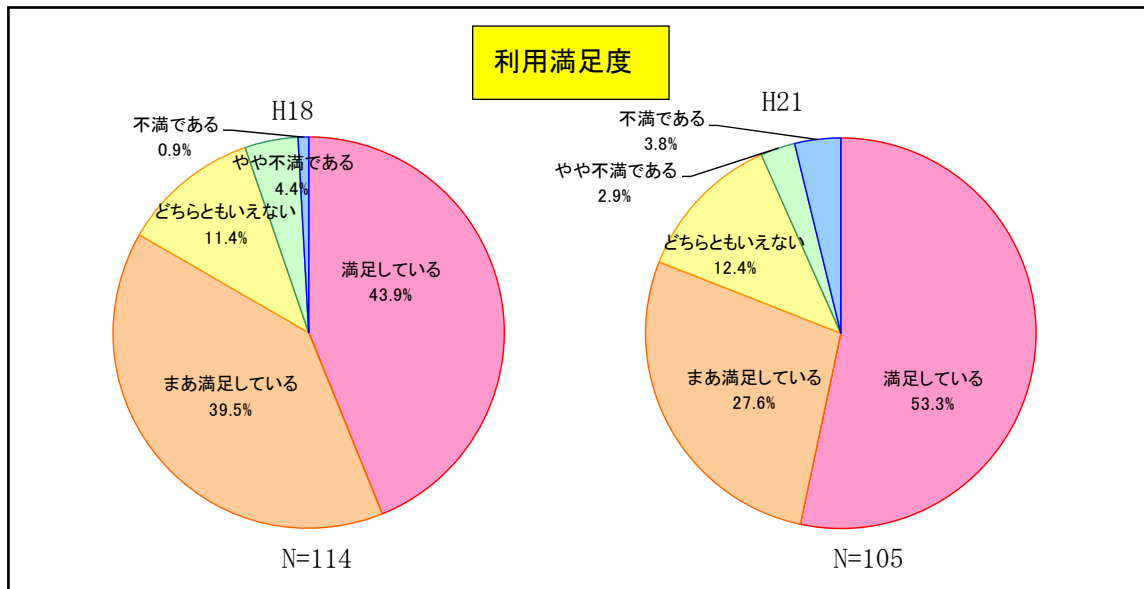


図 7.6.2-6 利用者の感想

### 7.6.3 ダム湖利用の評価

比奈知ダム貯水池周辺は、環境整備や道路整備が実施されており、幅広い年代でレクリエーションを中心とした利用が行われている。また市街地(名張市)から近い立地ということもあり、散歩など、地域住民の日常的な来訪があることも比奈知ダムの特徴であると考えられる。

利用者の満足度も高いものの、ゴミや伸びた草が多いことから不満を感じる利用者もある。

ダム管理者である水資源機構は、ダム湖周辺利用をさらに促進するため、利用施設の管理を適切に実施するとともに、パトロール等による利用者の安全確保、不法行為の抑制等に努める必要がある。



## 7.7 その他関連事項の整理

### 7.7.1 比奈知ダム水源地域の特性分析

比奈知ダム水源地域の現状から、地域の特徴や資源、ポテンシャルと、地域の活性化に向けた課題点を抽出・整理した。

#### (1) 地域の特徴や資源、ポテンシャル

##### ①水源地域全体の特徴や資源、ポテンシャル

###### 1) 流域が4市村をまたいでいる。

比奈知ダムの水源地域は、名張市、津市(旧美杉村)、御杖村、伊賀市(旧青山町)の4市村に及び、多くの自治体や住民が関わっているダムである。

###### 2) 身近な自然とのふれあいの場となっている。

比奈知ダム流域は、名張等の市街地に近く、三重県からの来訪者が多く、大阪、奈良など近畿圏の都市部からの来訪者もいる。こうした立地にあつて、山地や農村風景が広がる緑豊かな環境を有しており、身近な自然とのふれあいの場として人々が訪れている。

##### ②比奈知ダム周辺地域の特徴や資源、ポテンシャル

###### 1) 貯水池周辺に広場や公園が多数存在する。

ダム周辺環境整備事業により、公園や広場が整備され、三重県のほか奈良、大阪、京都等より多くの人々が水源地域及びダム周辺を訪れている。利用者の年齢層も幅広く、野外活動、散策、スポーツ等を目的に来訪している。

ダム管理開始後14年目と新しいこともあり、施設利用者の満足度も高いものと考えられる。夏季には下流の親水公園で水遊びをする家族連れなども多く、利用方法、利用者層が多岐にわたっている。

###### 2) 地域活動の場となっている。

比奈知ダム見学会などと合わせて、地域が主体となった「地域特産品・ecoフェア」を開催するなど、地域住民が環境を学ぶ場として比奈知ダムを活用している。また、桜(花見)、鯉のぼり、ホテル鑑賞、水遊び、紅葉鑑賞など、多くの人々が来訪し季節を楽しむ場ともなっている。

また、「ひなち湖紅葉マラソン大会」を始め、平成21年からクラシックカーのラリーがダム湖周辺で行われるなど、地域の大きなイベントの会場として利用されており、地域活動の場となっている。

###### 3) ダム、ダム湖へのアクセス利便性が高い。

名張市から非常に近く(数km)、ダムへのアクセスが容易であるため、日常的に散歩や休憩などの利用が多いことも特徴である。

#### (2) 地域活性化に向けた課題点

##### ①水源地域全体での課題点

###### 1) 地域活性化の発展、維持に向けた取り組みが必要

現状で、比奈知ダムは様々なイベントや地域活動の場として活用されており、地域

活性化に貢献していると考えられる。今後もさらなる地域活性化に寄与するとともに、活性化の方策を一過性のものにならず、維持していくための仕組みづくりも求められるところとなる。

## ②比奈知ダム周辺地域での課題点

### 1) 貯水池及び公園や広場の有効活用

比奈知ダムでは、広大な貯水池、環境整備事業にて整備された公園、広場を有しており、多くの利用者が訪れている。今後もこうした優れた資源を有効に活用し、地域と共に活用の場を広げていく検討を継続的に実施する必要がある。

## 7.7.2 比奈知ダム水源地域の活性化に向けた取り組み方針

比奈知ダムにおける特性及び課題を踏まえ、今後の地域活性化のための取り組み方針を以下に示す。

- (1) ダム水源地域ビジョンに基づき、ダム管理者として今後も水源地域と連携し、以下のような活動を継続して推進していく。
  - ・ダムの見所、季節の便りなどを作成し、インターネットでの情報発信、イベント等で配布
  - ・水源地と下流との交流や地域活性化を目的とした水源地ツアーを開催
  - ・出前講座、職場体験など地域への貢献
  - ・地域防犯講習会の参加、ダム防災の広報
- (2) 近年の国民の健康に対する関心の高まりに伴い、ランニングやサイクリング、スポーツ等を行うことができる場の需要が高まっていることから、ダム湖周辺の利用を積極的にPRするなど、こうしたニーズに応えることにより、更なる地域活性化を図っていく。

### 7.7.3 【参考】今後の取り組み事例

#### (1) 啓発活動・地域への貢献

- ・地域連携をさらに強化し、ダム施設見学会（参考 H24:160 人参加）、地域の防災講習会やイベントへの参加、出前講座等を通じてダムの役割や浸水災害の危険性、水の大切さ等について啓発を行う。
- ・職場体験の受け入れ等、地域への貢献を行う。



これまでの取り組み事例

#### (2) ダム湖および周辺の安全・快適な利用促進

- ・ダム湖や周辺の公園などを安全・快適な利用を促進するためのルール徹底、危険箇所・生物等の呼びかけなどを行う。

これまでの取り組み事例

(3) 水源地域広報の取組

- ・水源地域地域の魅力を広く伝え、更なる利用促進を図る。
- ・季節の魅力や、ダム周辺のマップなどの情報発信を継続して行ったり、イベント等で広報を行うなど、PRを行う。

**ヤエザクラが咲き始めました！**



比奈知ダムViewスポット



これまでの取り組み事例

## 7.8 まとめ

比奈知ダムは、平成11年に管理を開始し、平成24年度で管理開始14年を迎え、施設見学やイベント等を通じて、ダムの認知度や施設利用経験も高まっていると考えられ、前項までの内容や国勢調査結果を踏まえ以下のように評価する。

- 比奈知ダム流域内における人口は、平成55年をピークに昭和60年以降減少しており、世帯数は平成2年から平成7年の間に増加傾向がみられるものの、以降は減少傾向を示している。
- 比奈知ダム管理所では、地元小学校や地域住民及び関係機関等に対して見学の受け入れを積極的に行っており、小学生や一般者のダム及び環境の学習の場としても確実に定着している。
- ダム湖利用実態調査から年間利用者数を推計すると、平成12年以降は年間約5万人となっており、幅広い年代でレクリエーションを中心とした利用が行われている。

水源地域の人口等の概要、観光施設等の水源地動態を引き続き把握していくとともに、環境整備事業にて整備された公園、広場等の資源を有効に活用し、今後も地域と連携した活動を積極的に実施していく必要がある。

## 7.9 必要資料（参考資料）の収集・整理

水源地域動態に係わる評価のため、ダム周辺の社会情勢、利用、整備状況に関わる以下の資料を収集整理した。

表 7.9-1 水源地域動態に使用した資料リスト

No.	文 献 ・ 資 料 名	発 行 者	発 行 年 月	備 考
7-1	比奈知ダムパンフレット	比奈知ダム管理所		
7-2	青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン	青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン策定会議	平成 16 年 3 月	
7-3	比奈知ダム管理所ホームページ <a href="http://www.water.go.jp/kansai/kizugawa/index_n.htm">http://www.water.go.jp/kansai/kizugawa/index_n.htm</a>			インターネットホームページ
7-4	平成 15 年度河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕(ダム湖利用実態調査編)	国土交通省河川局河川環境課	平成 16 年 10 月	
7-5	平成 18 年度 比奈知ダム河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕(ダム湖利用実態調査編)	木津川ダム総合管理所	平成 18 年度	
7-6	平成 21 年度 比奈知ダム河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕(ダム湖利用実態調査編)	木津川ダム総合管理所	平成 21 年度	
7-6	平成の大合併 日本全図	(株)ゼンリン	平成 18 年 3 月	
7-7	比奈知ダム工事誌	比奈知ダム建設所	平成 11 年 3 月	
7-8	名張市ホームページ <a href="http://www.city.nabari.mie.jp/">http://www.city.nabari.mie.jp/</a>	名張市		インターネットホームページ
7-9	津市観光協会ホームページ <a href="http://tsukanko.jp/">http://tsukanko.jp/</a>	津市観光協会		インターネットホームページ
7-10	御杖村役場ホームページ <a href="http://www.vill.mitsue.nara.jp/index2.html">http://www.vill.mitsue.nara.jp/index2.html</a>	御杖村役場		インターネットホームページ
7-11	平成 20 年度 比奈知ダム定期報告書	木津川ダム総合管理所	平成 21 年 3 月	
7-12	平成 20～23 年度 比奈知ダム年次報告書	木津川ダム総合管理所		
7-13	平成 19 年度 木津川ダム群年次報告書作成業務 報告書	木津川ダム総合管理所	平成 19 年 10 月	